

学校図書館運営について

学校図書館主任 山下 啓子

学校図書館は、学校教育が充実することを目的とする、欠くことのできない基礎的な設備です。（学校図書館法 第一条）そこに日常的に学校司書が常駐することで、児童一人一人の読書活動を支え、授業と連動した学びを深め、さらに学校全体の読書環境を整えることが可能となります。主幹学校司書が配置されて 4 年目となる本校の学校図書館の現状をまとめました。

① 児童の読書支援



読み聞かせ

学校司書が日常的に学校に常駐することで、児童一人一人の読書傾向や興味を把握し、きめ細やかな読書支援が行うことができます。児童が本を選ぶ際に相談を受け、その子に合った本を紹介したり、新たなジャンルを提案したりすることで、読書の幅を広げることに繋がっています。また、読書が苦手な児童に対しても、絵本や短編、写真の多い本などを勧め、児童が無理なく読書に親しむことができるように支援します。さらに、季節や行事、授業の内容に合わせて

た本の読み聞かせの実施など、読書を楽しむ機会を日常的に提供しています。

主幹学校司書の配置により、週 4 日図書館開放をしています。児童は、休み時間や放課後に自由に図書室を利用でき、読書への自主的な意欲を育むことに繋がっています。

こうした継続的な関わりにより、読書が「特別な活動」ではなく「日常の一部」として根付き、児童は自分に合った本を見つける喜びや、読書を通じて感じ・考える楽しさを体験し、自己表現力や想像力を豊かに育むことができます。

② 授業支援

学校司書が日常的に学校にすることで、教員との連携による授業支援がよりスムーズに行われます。国語科では物語文や説明文の学習内容に関連した本の紹介、社会科や理科では調べ学習に必要



国語科 関連本



児童の手づくりの

な資料の提供など、授業に直結した支援が可能となります。本校では、毎月の学年便りを学校司書に渡しており、学年の進度や単元構成を理解し共有していることで、関連本の読み聞かせ、授業内容に応じた資料やブックリストの作成など、的確な授業支援が実現しています。教員にとっても、教材や資料の準備を学校司書と分担できることで、授業の質の向上と効率化が図られています。

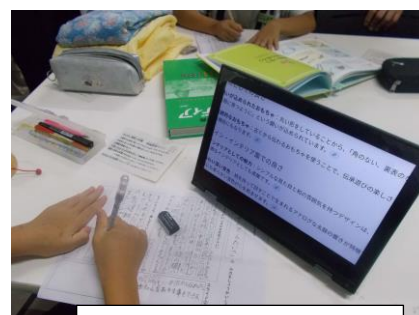
学校司書が日常的に学校にいるからこそ、教員との情報共有が自然に行われ、学校図書館が授業と一体となった学びの拠点として機能しています。



和の文化の展示

③ 児童の主体な学びの支援

学校図書館は、読書のある場であると同時に「情報センター」としての役割も果たしています。児童が自ら課題を見つけ、必要な情報を収集・整理・活用できるように、学校司書と教員が連携して、調べ学習の支援や情報リテラシーの指導を行っています。学校司書は、授業と関連した、信頼できる資料の選び方や引用の仕方を支援し、主体的な学びを支えています。学習の内容に合わせて、調べ学習コーナーやパソコン、インターネット環境を整備し、検索しやすい資料配置や掲示物の工夫を行っています。これにより、児童は安心して情報を探し、学びを深めることができます。



調べ学習

④ 環境整備



平和学習の展示

学校司書が常駐していることで、図書館の蔵書や利用環境の整備が継続的に進めることができます。蔵書の管理や新刊の選定、分類や修理を計画的に行うことで、児童にとって使いやすく魅力的な図書館が維持されています。また、季節や学校行事に合わせた展示や特集コーナーを設けることで、児童が自然と本に親しみきっかけをつくることができます。また、図書館利用のルールやマナーを児童に丁寧に伝えることで、図書館を大切に扱う意識も育まれています。さらに、読

書週間などの学校行事と連携した読書イベントを企画することで、学校全体が「読書を楽しむ」という意識を高めることに繋がっています。

こうした継続的な環境整備により、「また行きたい」「もっと読みたい」と思える学校図書館づくりが実現し、学校全体の読書文化がより豊かに育っています。



図書室の掲示

⑤ 主幹学校司書と図書委員会



図書だより

学校司書が委員会活動の時間にいることで、活動内容を把握し、教員とともに日常の支援をすることができます。

毎月の「図書だより」や掲示物の作成、イベントの企画など日常的に関り、最初から最後まで丁寧に支援することができます。学校司書の専門的な知識により、図書委員会の活動の質を高め、児童による開かれた学校図書館の運営が行われています。



おすすめ本の展示



読書週間イベント

学校司書が日常的に学校に常駐することは、児童の読書活動を支えるだけでなく、授業を補い、学びの質を高め、そして学校全体に豊かな読書文化を根付かせる大きな力となります。学校司書と教員が連携し、児童と本とをつなぐ取り組みを継続することで、子どもたちの「読む力」「考える力」「生きる力」を総合的に育んでいくことが期待されます。

今後も、学校司書と教員の協働により、「児童が学びに向かう力と豊かな心を育む場」となる学校図書館を目指します。

国語科指導案

大阪市立南市岡小学校 指導者 中林 真理子

主幹学校司書 辻 智恵子

1. 日時 令和7年10月8日(水) 第5時限(13:45~14:30)
2. 学年・組 第4学年1組 24名(男子15名、女子9名 在籍)
3. 場所 学校図書館
4. 単元名 「目的に合わせて要約しよう」
『和のみ力』をしょうかいしよう」教材(東京書籍4年下「くらしの中の和と洋」)
5. 単元の関連と系統

4年・7月 前単元

4年・10月 本単元

4年・1月

<p>単元名 表し方のくふうを読み取ろう 「広告を読みくらべよう」(東京書籍 4年上) 二つの広告を読み比べて表し方の工夫を読み取り、なぜ違いがあるのか</p>	<p>単元名 目的に合わせて要約しよう 「くらしの中の和と洋」 (東京書籍 4年下) 自分の考える和室のよさについて、書かれていることの要約を用いて紹介することができる。</p> <p>単元名 目的に合わせて材料を整理しよう 『和のみ力』をしょうかいしよう」 (東京書籍 4年下) 目的に合わせて材料を整理し、『和のみ力』の紹介のためのプレゼンテーションを作り、紹介することができる。</p>	<p>単元名 日本語の数え方について考えよう「数え方を生み出そう」(東京書籍 4年下) 日本語の数え方に対する筆者の考えを捉えて、自分の考えを広げることができる。</p>
--	--	---

6. 学習目標

【読む】

- 和と洋のよさについて、書かれていることの要約を用いて紹介することができる。
- ・和と洋を比較しながら読み、目的を意識して中心となる語や文を見つけることができる。
- ・写真や本文から、気付いたことを伝え合おうとすることができる。

【書く】

- 目的に合わせて材料を整理し、「和のみ力プレゼンテーション」を作ることができる。
- ・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことから書くことを選んでいる。
- ・情報をわかりやすく図表に整理したり、考えたりすることができる。
- ・調べたことをまとめるために、事実やそれを基に考えたことを書くことができる。

7. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り 組む態度
	読む能力	書く能力	
<ul style="list-style-type: none"> ・比較や分類の仕方を理解し使っている。(2)イ ・書き留め方、引用の仕方や出典の表し方を理解し使っている。(2)イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述をもとに捉えている。(C(1)ア) ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(C(1)ウ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた資料を比較したり、分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところをみつけている。(B(1)オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで目的に合わせて文章を要約し、学習の見通しをもって、紹介文を書いて感想を伝え合おうとしている。

8. 指導にあたって

(児童観)

本学級は、外で元気に活動する児童が多い。また、短い休み時間等には読書をする姿も多く見られ、読書好きな児童が多い。週2回の朝の読書タイムでは、絵本や中学年の読みものに加えて、シリーズものの物語などを、時間をかけてじっくり読む児童もいる。

4月初め、自分の意見や感想を書く場面では、大きな課題が2つあった。一つ目は、約4割程度の児童が文を書き慣れていなかったことである。文章全文がひらがな表記で漢字を使っていなかったり、字形や文字の大きさが整っていなかったりしたことである。2つ目は、タブレット端末を使用することに過度に慣れてしまい、「タブレットを使ったら早いし簡単だ」と述べるなど、自らの手を動かして文字を書いたり、辞書を引いて言葉を調べたりすることが面倒だと感じている様子が見られたことである。

この状況を踏まえて、本学級では文字や文を書いたり、辞書を引いて言葉を調べたりする活動を国語科のどの単元でも取り入れてきた。

5月の「ヤドカリとイソギンチャク」の学習では、説明的文章の文の構成を理解し、文をまとまりごとに分ける学習を行った。児童は、文章が順序だてて書かれていることや、筆者の主張にも気づくことができた。学習のまとめとして、「生き物紹介リーフレットをつくろう」という言語活動に取り組んだ。生き物の生態を調べる活動を通して、児童は動物たちの子どもを育てるという命をつなぐ営みや、自然の中で生きる厳しさについて、より関心を持つことができた。

7月の「広告を読み比べよう」の学習では、2つの資料を読み比べ、共通点や相違点を読み取ったり、目的に応じた作り手の工夫などを考えたりする活動を行った。児童は、それぞれに使われている写真やキャッチコピーに、書き手の「読み手を意識した意図」があることを理解できた。また、『子どもの急な発熱に』という見出しの広告のキャッチコピーについては、「親がすぐ熱を測りたいような書き方をしている」と話す児童がおり、「書き手の思い」についても学級全体で共有することができた。

本単元に入る前に、以下の項目でアンケートを行った。(学級調べ、令和7年7月15日(水)実施、24名)

質問1：和（日本）と、洋（日本以外のもの）にはどんなものがありますか。	
和のもの	洋のもの
衣服 …きもの（14人）、ゆかた、ぼうし、下駄 住まい…机（低い）、ふすま、ざぶとん、こたつ、 かまど、炊飯器、洗濯機	衣服 …シャツ、ぼうし、スカート、カチューシャ 住まい…ソファ、トイレ、テレビ、ベット、 ビザカッター、人形
食 …寿司、みそ汁、ごはん、さしみ、お茶漬け、 天ぷら(ポルトガル語)、麦茶	食 …ハンバーグ、ハンバーガー、ナポリタン、 ピザ、パン
文化 …筆、祭り、カルタ(ポルトガル語)、凧揚げ、 折り紙、将棋、盆踊り、花火、お手玉	文化…ボールペン、トランプ、クリスマス、 ハロウィン、パレード
質問2：あなたは「日本のもの」について調べたことがありますか。	
・ゆかたを着たことがある。（7人） ・3年生の社会科で学習した。	・下駄をはいたことがある。（1人） ・家族と今昔館に行ったことがある。

児童の約半数は、「衣・食・住」の文化について、「和と洋」の違いを「和＝日本のもの」ではなく、「和＝身の回りに昔から当たり前にあるもの」と認識していることがわかった。その他の児童は、「わからない」や「なんとなく」と書いたり話したりしていた。

今回の学習では、当たり前にある和のものと対になる洋のものの良さを調べ、その後、「和のみ力」について焦点を当てて調べることとなる。

調べ活動は、どの児童も意欲的で、自ら進んで本を手に取り読み進めることができる。しかし、情報をまとめたり、書いたりする活動については、個人差が大きい。今回は、2つの単元全体を通して、書く活動が多くなる。目的を明確にして文を書くことに慣れていない児童は、書くことに躊躇することが予想されるため、スモールステップでどの児童も書くことができるようにしたい。

（学校図書館との協働）

① 読書センターとしての学校図書館

本学級では、4月から「図書の時間」を週1回行っており、多くの児童がとても楽しみにしている。図書の時間には、ほぼ毎回、児童の学習活動に関連づいた内容で、主幹学校司書が読み聞かせを行っており、それも児童が楽しみにしている理由の1つである。貸出については、3冊のうち1冊は分類9の物語の本を入れることとしており、学校全体でも貸し出し図書のうち1冊は分類9の物語の本を借りることとしている。その理由としては、本校の研究主題が「思いや考えを豊かに表現し、相互に理解を深め合う児童の育成」としており、国語科教育で物語の読解指導に取り組んでいることが挙げられる。

児童は、物語文を読むことを通して、様々な立場や考え方生き方に触れる。それを積み重ねていくことは、生活や人生に起きる様々な出来事に向き合うための素地を養うことにつながる。それは、外的な経験だけでなく、内的な気持ちの揺れ動きや、自他を客観的に観るなどの経験が物語を通してできるからである。本校では、「物語を読む」機会をより多くもち、児童自身も「自分の物語を生きている主人公」であり、大切にされる存在であることを伝えるようにしている。これについては、『『生きる』教育』の取り組みともつながっており、学校図書館で、より多くの物語に触れるという取り組みを重要視している。

これらの取り組みを経て、基本的な学校図書館の使い方や、過ごし方など、読書センターとしての学校で図書館の活用は、多くの児童に定着している。

② 学習センターとしての学校図書館

4月の「図書館へ行こう」の学習では、「最強の図書館を作ろう」をめあてに、「日本十進分類法」や「本のつくり」について理解し、図書を活用する学習を行った。



活動の流れとしては、1グループ6人で分類0～9の本の担当を決め、それぞれの分類で自分が一番面白そうと思う本を選び、ベスト1として、ワークシートに記入する。分類0～9までのベスト1がそれぞれ載っており、「最強」の図書館となる。この活動を通して、児童は、普段手に取らない分類0や1、2、3などの本を読み進めたり、内容をみて「おもしろそう」と友達に話したりして、すべての分類に触れることができた。

主幹学校司書によるワークシートや資料の提供により、児童は本が分類別に分かれており、さらに細かいジャンルへと細分化されていること、それが目的に応じて調べる際の学校図書館活用にも有効的であることに気付くことができた。

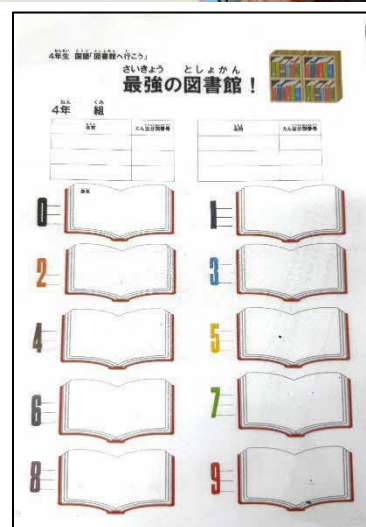
5月の「生き物紹介リーフレット」作成において、学習センターとしての学校図書館の活用も経験した。作成にあたって、「個別最適な学習」として、児童の主体性を促すために、児童が自分で選んだテーマについて1人1冊資料を確保することを重要視して学習を進めた。



児童は、動物図鑑（約32ページ）の多くの情報の中から、紹介したい観点を3つ決め、目的に応じて情報を整理しまとめる活動を行った。言語活動の5時間のうち、3～4時間を学校図書館で行い、調べ学習や、情報活用を行い、リーフレットの発表や紹介も図書館で行った。指導者と主幹学校司書で支援を行った。

作成過程において、自分で目的に応じて文章を選んだり、文を引用したりして意欲的に取り組む児童もいたが、一冊の本の中の膨大な情報から、必要な情報を選ぶことに難しさを感じる児童もいた。

読み書きの支援を主幹学校司書と指導者で個別に行いながら、学習の最後には、どの児童も自分の調べたい動物を選び、最後にはリーフレットにまとめることができた。活動を通して、「パンダの赤ちゃんは15cmだった。あんなに大きくなるのに。」や、「キツネのお母さんは、子どもをわざと巣から遠ざけて独り立ちさせるんだって。」と、得た情報を周囲に伝えるなどとても意欲的に取り組む姿が見られた。また数名の児童は、本に載っていない情報をさらに調べようとICT端末を活用していた。



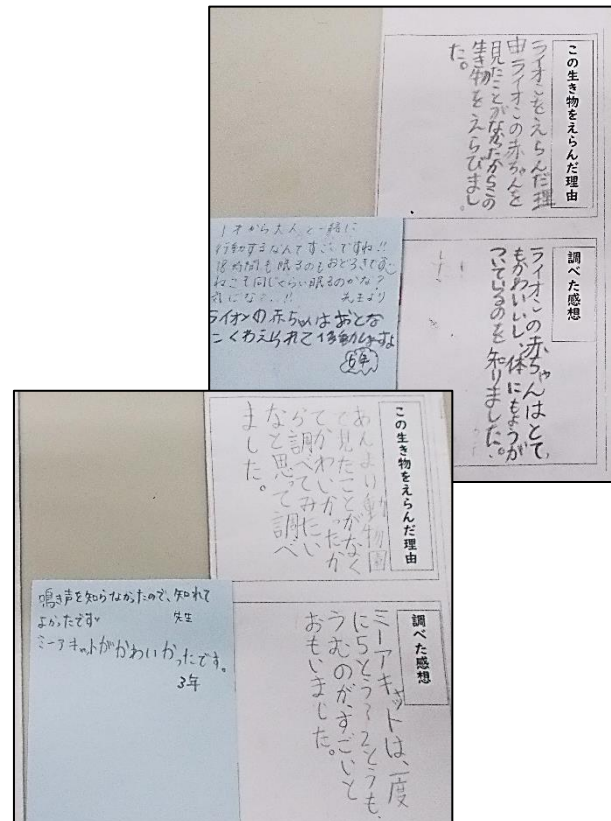
主幹学校司書と相談し、学習後、完成したリーフレットを学校図書館に展示し、利用する他学年や教職員に感想を書いてもらうことにした。児童は、自分が書いたリーフレットが、他者に読まれ、感想や質問をもらえたことについて「ほかの人が読んでくれてうれしい」「頑張ってよかった」「ほかのものもやってみたい」と、喜び、目的をもって文をまとめたり整理したりすることにさらに、意欲的になっていた。これらの活動を通して、多くの児童が、「学校図書館」という場所は本を読むだけでなく、調べたりまとめたり、自らが主体的に調べたいことを追求できる場所という認識が児童の中で広がったと言える。



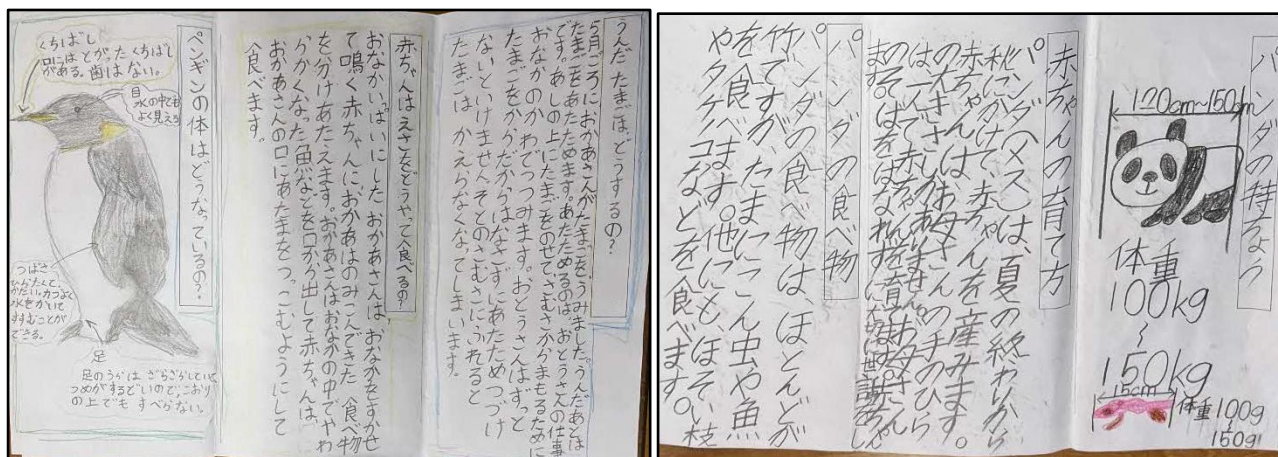
リーフレット表紙



リーフレット裏表紙



リーフレット (中身)



③ 情報センターとしての学校図書館

本校では、国語科の言語活動だけでなく、他教科の学習においても情報センターとしての学校図書館活用に努めている。その中で、ICT端末の活用にあたって、課題となっていることが2つ挙げられる。

一つ目は、児童が必要な情報に辿り着くまでに、支援が必要であることである。インターネットを開いて、検索ワードを2～3個入力しても、膨大な情報と読みにくい（漢字に仮名がない）文章が出てくるのがほとんどである。児童が調べやすいように学校図書館における電子書籍の導入が必要である。そうすれば、児童が自らの力で、情報まで今よりも短い時間で辿り着くことができるだろう。

二つ目は、情報の比較や取捨選択をするための情報リテラシー教育が十分でないことがあげられる。児童は、自分が書きやすいというだけの理由で文章を抜き出してまとめることがある。情報収集、検索、情報の信頼性を確かめることは、指導をするが、児童一人一人に支援が行き届かないのが現状である。個別最適な学びを、ICT端末を活用しながら進めるためには、情報の扱い方、選び方や、マナー教育を並行して取り組む必要がある。

本校では、学校主幹司書が必要な情報までの二次元コードを個別に作成するなどして、調べ学習の充実を図っている。情報の安全性についても、二次元コードを生成する際に指導者が確認しているため、安全であると言える。

本単元の学習では、最後にスライドを作成することとなっている。ICT端末を情報媒体として、発表ツールとして活用する時間も設けている。上記の課題を踏まえて、チャレンジングではあるが、主幹学校司書と協働し、児童の主体性を大切にしながら情報センターとしての図書館活用を意識した学習の取り組みを進めていく。今後、調べた内容や成果物を、ICT端末を活用して児童が互いに交流する表現活動を設定していくことで、協働的な学びの展開の大きな手助けとなると考える。

【教材観】

本教材の「くらしの中の和と洋」は、学習指導要領の「C 読むこと」の指導事項イ「目的に応じて中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」「目的に応じて重要な語や文を選び要約すること」をめあてとしている。

本文は、くらしの中の「住」における和と洋の違いや良さを対比して分かりやすく説明したものである。文章が、「はじめ—中—終わり」という構成になっており、全体の内容が捉えやすい。中では「過ごし方」と「使い方」の2つの観点が、和と洋で、対比構造で述べられており、それぞれの良さが明確になっている。児童は、文章全体の内容を把握し、大事な語や文を選んで引用・要約することに効果的な教材であると言える。また、言語活動として、和と洋ブックの作成を設定している。テーマを決め、本文の文型を基本に、和と洋の違いや良さをまとめることで、関連のある本を読み広げたり、さらに深く調べたりするなど、多様な調べ活動も展開できるだろう。

続けて行う「和のみ力を伝えよう」では、「書くこと」の指導事項アの「相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた資料を比較したり、分類したりして、伝えたいことを明確にしている。」をめあてとしている。「和のみ力」について、スライドを使って発表する活動である。前時までの和と洋、それぞれに良さがあるというところを押さえたうえで、さらに和のみ力を調べ



ることとなる。児童は、資料を収集、整理しまとめる活動を通して、自分の身の回りに当たり前に和の文化が存在しており、それらに囲まれ生活していることに気付くだろう。そして、その利便性や受け継がれてきた日本特有の文化に改めて目を向け、その良さを再認識できる。また、さらに深めたい場合、「和のもの」が実は外国から来たものもあり、日本人が独自のものとして作り変えてきた歴史にも目を向けることができる。それを通して、日本文化とは、実に多様な文化を受け入れ、それを独自のものとして作り変えていることに気付くだろう。これらの気付きを通して、私たちの文化は多様な文化を受け入れながらより豊かになっていったことに気付き、他国の文化についても、興味関心をもつようになる。

2つの単元の全体を通して、自分が興味関心のあることをさらに深く調べるという経験をし、これまで学んできた文章を読み取る力、要約する力、ICT 機器の活用などに取り組むことができる機会となる。

【指導観】

本学習は、「くらしの中の和と洋」と、「和のみ力をしょうかいしよう」という二つの単位をつなげて取り組む。学習の目標は、一つ目は、「目的に合わせて要約しよう」、二つ目は「目的に合わせて材料を整理しよう」である。

(1)「くらしの中の和と洋」の学習において（主幹学校司書との協働には下線）

単元の学習に入る1か月半前に、大阪市立図書館へ並行読書用の本の貸し出しを、主幹学校司書と協働して行う。昨年度も同単元で行っており、4月当初の学習の年間指導計画を立てる段階で決めており、6月初旬ごろに、授業内容やテーマについて指導者と主幹学校司書で相談し、大阪市立図書館宛てに「和と洋の調べ学習」「和のみ力、祭り、文化」とテーマを挙げて要望を出した。選書は、市立図書館司書の方々が行ってくださり、約100冊以上の図書がそろった。

学習のはじめは、三年生の社会科で学習した「昔の道具」について想起するようにし、衣食住にかかわって日本で古くから使われていた道具や、現在も使われている道具について確認しておく。

第一次は、学校図書館で行う。はじめに、「大阪くらしの今昔館」のウェブサイトから、昔の人の暮らしを見て、児童自身がこれまでに見たり、触ったりしたものについて共有し、和の文化についての興味関心を高める。その後、事前に準備した「和」のものについて、学校図書館に実物を展示したり、資料を提示したりして、その大きさや形などを実物に近い形でイメージできるようにする。その後、ハテナシートを活用して百科事典の使い方を学習する。

次に、3年生までに学習した説明文「自然のかくし絵」を提示し、スモールステップで、説明文の文章構成や、読み取りの手順を確認する。手順としては、説明文全文を児童全員が手にして、「大きな問い」とそれに対する「答え」を読み取り、「始め」「中1、2」「終わり」といった文章構成を理解し、終わりの部分にある筆者の主張や、「例に挙げる」「写真」「資料の引用」などの説明文の工夫があったことを想起し、確認するようにする。

そして、並行読書と記録カードについて周知し、言語活動で「和と洋ブックを作る」ことを知らせ、見本を提示し児童が見通しをもって学習に取り組むことが出来るようにする。並行読書で読んだ本は、記録カードに「和と洋」の対で記録する。「和」のみ力の箇所は、自分が調べたい「和」のものを記録できる部分に分けて書くようにし、「和のみ力調べ」の際に課題設定に役立つようにする。

第二次では、まず初めに、接続語や文末の言葉などに着目し、本文を文のまとまりごとに分け、文章構成を確認する。その後、それぞれの文のまとまりに見出しをつけ、読み取りを進めていく。進めるにあたって、本文では「和と洋」とあるが、「洋」は「西洋」であることが想像しにくい場合は、「日本（昔から

あるもの」と、アメリカやヨーロッパ（新しくて外来のもの）」と言い換えるようにする。

児童の生活環境から、「住」の多くは家具などが「洋」のものと予想されるため、「和」については、本文の挿絵や実物を用いて、出てくる道具をイメージできるようにする。内容を理解した後、「要約」に取り組む。どの児童も、要約できるようにスモールステップで取り組むようにする。

手順として、①目的「テーマ」を提示する。②目的に応じた言葉や文を選びサイドラインを引く。③それを自分の言葉で、限られた文字数でまとめる。まとめる際に、接続語「一方」「～だが、」などの言葉も活用して、文を短くすることを助言する。①～③を、全体、グループ、ペアでと段階を踏んで行い、最後には、個人で行うようにする。要約の最後の時間には、クリティカルリーディングを促す発問として、「筆者はこれまで両方の良さを述べてきたが、どちらが良いと思っているか」と問いかける。児童は、何度も本文を読み返しながら、考えを深めており、答えは半数ずつに分かれることが予想される。児童は迷いながら発問を考えることで、筆者の意見はあったとしても、読み手に両方の良さが伝わるように本文を書いていることに気付くと考え。そうすることで、今後、自分が書き手となって和と洋ブックをまとめる際に、片方だけの書くのではなく、両方の良さを調べて書くことの意識付けになると考える。

第三次では、言語活動を学校図書館で行う。和と洋ブックの見本をもとに、これまで、並行読書の本から記録してきた対になっているものの中で、テーマを決める。調べるにあたって、主幹学校司書と協働し、1人1資料となるようにする。紹介するテーマとしては、①2つの「違い」（それぞれの特徴を書くこと）、②それぞれの良さ（使い方、使われ方など）を書くこととする。取り組む前に、「情報をせい理するコツ」として、要約「まとめること」と、引用「文章を抜き出すこと」について改めて確認する。目的に応じて適切な図書を選び、情報を収集することと、またその情報を整理してまとめる活動に個々に取り組む。ここでも、まとめて書くためのスモールステップとして、次の5段階を丁寧に踏んで、進めていくようにする。①テーマをしぼる。②調べる。（資料集め）③文の伝えたい部分を切りとる。④文をまとめる。⑤文を書く。である。この流れは、自ら進めることのできる児童だけでなく、個別の支援としても指導者と主幹学校司書で共有し、図書室で児童の支援ができるような環境で行う。1人1資料を用意し活用することや、個別の支援を適切に行うなど、調べ学習から表現活動までを充実したものにするためには、自ずと学校図書館の活用、市立図書館との連携の成否が成立の大切な条件となると考える。

完成したら、学習のまとめてとして、全体に発表し、互いにいいところを認め合うようにする。その後、しばらく学校図書館に展示し、学校の児童や教職員などが手に取って読めるようにする。

【選ぶ際の参考資料】

「『日本と世界の暮らし』どこが同じ？どこがちがう？ 衣」より 衣服：和服と洋服 履物：下駄と草履と靴、足袋と靴下 衣服と収納：和筆筒と洋筆筒 花嫁衣装：和式と洋式 喪服：白と黒 筆記用具：筆とペン 書く・伝える：和紙と洋紙 荷物を運ぶ：風呂敷とカバン 拭く：手ぬぐいとタオル	「『日本と世界の暮らし』どこが同じ？どこがちがう？ 食」より 主食：米とパン 食材：魚と肉 食卓：ちゃぶ台とテーブル・イス 食事の道具：おはしとスプーン・フォーク、 飲み物の器：湯のみとコップ お茶：緑茶と紅茶 調味料：しょうゆとソース カレー料理：カレーライスと世界のカレー お菓子：和菓子和洋菓子 季節の行事：お正月とクリスマス	「『日本と世界の暮らし』どこが同じ？どこがちがう？ 住」より 住まい：木造と石造り 床材：畳とカーペット 食卓：ちゃぶ台とテーブル・イス 扉の様式：ふすまとドア 建設インテリア：障子とカーテン 保護：座布団とクッション 寝具：布団とベッド 入浴：風呂とシャワー トイレ：日本と西欧 暖房：囲炉裏と暖炉 あかり：日本とヨーロッパ
--	--	--

学習指導計画「くらしの中の和と洋」（全 13 時間）

次	時	学習活動	指導・支援・評価 ★評価規準
1	1	【図書の学習として行う】（図書館） ・昔の道具を資料とともに振り返る。 ・図鑑の使い方の復習、百科事典の使い方の学習 ・資料の使い方、検索ワードによる検索の仕方	・主幹学校司書と指導者とで行う。
	2	・既習の説明文を読み、説明文の構成を復習する。 「自然のかくし絵」	・説明文では、始め「話題提示や大きな問い」、中「問い、答え、説明」、終わり「大きな問いの答え、主張、まとめ」であることを確認する。 ★段落相互の関係に着目しながら、文の構成を理解している。(全文ワークシート) (C(1)ア)
	3	・題名読みを行う。 ・範読を聞き、初発の感想を伝え合う。 ・「くらし」という言葉の意味を理解したり、「和と洋」についてイメージを膨らませたりする。 ・意味が分からない言葉を調べる。 (欧米、伝統的、ひざをくずす、あぐらをかく、間かく、目上、見当、) ・並行読書について知る。和洋比べカードに記録する。 ・「くらしの中の和と洋ブック」を学級として1冊つくり、学校図書館において、全学年に読んでもらうという言語活動を知り、単元の見通しを持つ。 ・その後、「和と洋プレゼンテーション」をすることを伝える。	・「くらし」という言葉から、「衣食住」の言葉に結び付く行動を想起するようにする。その後、児童の生活の中での「和」や「洋」の体験や、経験を出し合うようにする。 ・和と洋についての資料の並行読書を行う。 ・「くらしの中の和と洋ブック（1ページのみ）」の見本を見せ、単元全体の見通しをもつことができるようにする。
2	4	・文をまとまりごとに分ける。 ・文章に①～⑮までの番号をつけ、「始め」「中」「終わり」にわけ。 ①②始め「話題提示、大きな問い」 ③中1（和室と洋室の大きな違い） ④～⑩中2（過ごし方の違い良さ） ⑪～⑬中3（部屋の使い方の違いと良さ） ⑭⑮終わり「答え・まとめ」	・全文を掲示し、これまでの学習を想起させ、「～考えてみましょう。」「～ののでしょうか。」という文に着目するようにする。それを「問い」とする。また、「まず」「次に」「このように」などの接続語に着目させ、文章のまとまりを考えるようにする。そして、中を3つに分けるようにする。 ・「始め」「中①～③」「終わり」に分けながら、それぞれの役割を考えることで、全文を大きく捉えることができる

		ようにする。
5	<ul style="list-style-type: none">・「始め」を読み取り、要約する。・「始め」について、挿絵からわかる衣食住のそれぞれの違いについて、話し合う。・①②の中で、話題提示として大切な文を1文選び線を引き交流する。・90文字枠シートに書き写す。・要約した内容を交流する。 <p>【ここでは、「衣食住」の「住」を取り上げ、日本のくらしの中で「和」と「洋」それぞれのよさがどのように生かされているか、考えてみましょう。】</p>	<ul style="list-style-type: none">・要約の目的は、「話題提示」として必要な文章とし、文を選ぶようにする。・①②全体を読んで、自分の言葉で要約することに挑戦しても良いことを伝える。・要約について、苦手意識を持っている児童には、目的を意識して文を選ぶように助言する。
6	<ul style="list-style-type: none">・「中1」を読み取り、要約する。・「中1」は、自分の生活環境を振り返り、和室と洋室の挿絵を見ながら、和室・洋室での経験を想起し、過ごし方、部屋の使い方について考える。・「一方」とう接続語が比べる時の言葉であることを確認する。・③から、「大きな違い」がわかる1文を選び、線を引き、交流する。・90文字シートに書き写す。 <p>【和室と洋室の最も大きな違いは、ゆかの仕上げとそこに置かれる家具だといってよいでしょう。】</p>	<ul style="list-style-type: none">・挿絵から、「大きな違い」(ゆか、たたみ)について着目するようにし、要約のための手立てとする。・要約の目的は、「和室と洋室の大きな違い」として必要な文章とし、文を選ぶようにする。
7	<ul style="list-style-type: none">・「中2」を読み取り、要約する。・「中2」は、まず⑥の問いに着目する。・⑦⑧で和室、⑨⑩で洋室の過ごし方の違いと良さについて要約する。過ごし方の違いと良さがわかる語や文に線を引く。・交流する。・それぞれ90文字シートにまとめる。 <p>【和室では、いろいろなしせいをとることができ、人との間かくも自由に変えられます。人数が多くても、みんながすわれます。】</p> <p>【洋室では、いすの形が工夫されているので、長時間同じしせいでもつかれません。次の動作にうつるのもかんたんです。】</p>	<ul style="list-style-type: none">・選ぶために手立てとして、文の構成とまとまりの内容がわかる一文を書いた表を掲示しておく。・要約の目的は、「過ごし方の違いとよさ」として必要な文章とし、文を選ぶようにする。・選ぶことが困難な児童は、一文を選ぶように助言する。

	8	<ul style="list-style-type: none"> ・「中3」を読み取り、要約する。 ・「中3」では、まず⑪の問いに着目する。 ・⑫⑬で部屋の使い方について要約する。使い方についてわかる文に線を引く。 ・交流する。 ・90文字シートにまとめる。 <p>【洋室は、そこに置いてある家具で何に使う部屋かわかります。これに対して、和室は、一つの部屋をいろんな目的に使うことができます。】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「これに対して」も、比べるときに使う言葉であることを確認する。 ・要約の目的は、「部屋の使い方の違いと良さ」として必要な文章とし、文を選ぶようにする。
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・「終わり」を読み取り、要約する。 ・⑭⑮の、始めの大きな問いの答えが重要な語であることを確認し、線を引くようにする。 ・交流する。 ・90文字シートにまとめる。 <p>【和室と洋室にはそれぞれの良さがあり、わたしたちは、両方の良さを取り入れてくらしています。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリティカルリーディングを促す発問として、筆者は、「和室」か「洋室」のどちらがいいと考えているかと問いかける。 ・その理由も考える。 ・交流する。 ・どちらか一方だけを強調するではなく、両方の良さを知った上で、自分の主張を述べることの良さを考えるようにする。 ・次時から、和と洋ブックを作ることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・終わりは、まとめや筆者の主張があることを確認する。 ・要約の目的は、「筆者の主張や大きな問いの答え」として必要な文章とし、文を選ぶようにする。 <p>★目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(要約文ワークシート) (C(1)ウ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリティカルリーディングのための発問を行う。 ・筆者は説明文で和室と洋室の両方n良さを分かった上で、「和室」の良さを強調していることに気付くようにする。 <p>★筆者の考えとそれを支える理由や事例などについて叙述をもとに、内容を捉えている。(ワークシート) (C(1)ア)</p>
III	10	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で調べたい和と洋、「衣食住」のどれかにかかわるものを決め、載っている本を探す。(図書館) ・テーマを決めて、表に書き記し、ブックに書く。 ・資料の探し方を思い出す。 ・①違い、②それぞれの良さを書くことを確認する。 <div data-bbox="274 1818 908 1980" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「情報をせい理するコツ」 引用「文を抜き出す」 言葉「～によると」 要約「自分の言葉でまとめる」</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館で行う。 ・これまで並行読書してきた項目の中から選ぶようにする。書くにあたって、追加の資料として必要な場合は、本から調べる。 ・一人一資料となるように、主幹学校司書と協働する。 ・ワークシートを使って比べながらまとめるようにする。

11	・本と紙の資料を確認しながら、違いと良さを見つけ出し、線を引く。	・資料から必要な語や文を選び、要約するようにする。書く際に、説明のための言葉を想起させながら、書くようにする。
12	・ブックの一部としてまとめる。	★集めた資料を比較したり、分類したりして、伝えたいこと明確にしている。(発表・態度)
13	・全体で交流し、友だちの良いところを発表し合う。	★相手や目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(ブック)(C(1)ウ)
	・次は、スライドを使って紹介する活動をすることを知らせる。	・互いを認め合うことができるようにする。
		★書こうとしたことが明確になっている。自分や相手の文章の良いところを見つけている。(B(1)オ)

(使用ワークシート、別紙)

(2)「和のみ力をしょうかいしよう」の学習において

指導に当たって、1時間目は、まず、これまでの和と洋ブックを作成したときの情報の集め方やまとめ方を振り返る。その後、「プレゼンテーションを使って和のみ力をしょうかいする」という学習のめあてを知らせる。その際、「み力」という言葉の意味について「すごいところ」「押しポイント」という言葉に置き換えて、共通理解し、調べる目的を明確にする。その後、プレゼンテーションまでの見通しが立つように、指導者が発表の見本と手元原稿を見せ、デモンストレーションをして示すようにする。全時間を学校図書館で行う。

発表用のスライドは、3ページ(1枚目はテーマと名前、2枚目は良さ、3枚目すごところ)とする。

「ぞうりのみ力」 南西岡 花子	【ぞうりの良いところ】 ・風通しがいい ・お手入れがかんたんでいい	【ぞうりの押しポイント】 ・クッション性あって、長時間あるいてもつかれない。 ・植物からつくられているから、
--------------------	---	--

その後、調べたいテーマを決める。児童は、記録カードから、和と洋ブックの時に選んだテーマでも、再度、新しいテーマでも、決めなおしても良いこととし、自分でテーマを設定するようにする。資料の関係上、児童に第2希望までとり、次の時間までに、主幹学校司書と相談して、できるだけ書籍や図鑑などで示すことのできる資料を探す。必要な資料については、学校図書館の図書だけでなく、ICT 端末でも主幹学校司書が用意した二次元コードを使って、児童が目的に応じて1人1資料を活用し、情報収集で

きるようにする。

2時間目は、決めたテーマの「和の紹介」部分についての手元原稿を作成する。手元原稿ができてから、それを要約して、発表スライドのキャッチコピーを作るという手順を知らせ、手元原稿を丁寧に作成するように伝える。まとめる際に、和と洋ブックと同じテーマであれば、その内容を発表の言葉に書き換えながら、複写してもよいこととする。違う場合は、調べて、紹介の部分の手元原稿を仕上げるようにする。

本時である3時間目では、調べ学習を行う。調べる内容は「和のみ力」である。調べたことを、手元原稿としてまとめていくようにする。良さの中でも、すごいと思ったことをさらに深く伝えたり、児童自身が紹介したりしたいすごいところは、良さと違っていてもいいと助言する。4時間目も引き続き行う。

5時間目は、学校図書館で自分が書いた手元原稿を要約し、スライド原稿を作成する。必ず、手元原稿の完成を優先し、自分で作成した文章を読み手が分かりやすいように要約する。その際に、1学期の「広告をよみくらべよう」で学習した、キャッチコピーや、見出し、写真の表し方を想起させ、使用したい写真やイラストなどの情報も活用してよいことにする。スカイメニューの発表ノートを使って作成するようにする。追加の情報などで、手元原稿の書き足しや、削除などをする児童もいることが予想されるため、「和のみ力をしょうかいする」という目的を明確にして、活動を進めるように助言する。

6、7時間目は、発表練習と発表の時間として、調べたことを伝え合うようにする。作成したスライドや発表の仕方など、工夫して取り組むようにする。また、児童が互いの工夫したところなどを交流する場とする。交流の場では、児童は24人（学級児童数）分の和の魅力を聞くこととなる。その際に、和の文化と思っていたものが「実は・・・外来のものであったという」であるとか、「ところが、日本人の手によって日本風になっていたのだ」というようなさらに奥深く文化を知るきっかけとなると、一つのことを深く深く調べていくことの達成感や、探求心の向上につながると考える。

【和のみ力をしょうかいしよう】（全7時間）

時	学習活動	指導・支援・★評価
1	【学校図書館で行う】 ・これまでの調べ方やまとめ方について振り返る。 ・「み力」という言葉について知る。 ・指導者の発表デモンストレーションを見て、学習に見通しをもつ。 ・テーマを決める。	・主幹学校司書は資料を準備する。 ・み力＝「いいところ、推しポイント、特徴、すごいところ」と伝える。 ・デモンストレーションを見せ、学習の見通しを持つようにする。 ・児童は、新たなテーマ設定をしても良い。
2	・テーマの「和のしょうかい（よさ）」について、手元原稿をまとめる。 ・和の良さは、2つ程度にする。	・これまでの書籍を使用しても良いし、別の書籍で調べても良いこととし、より多くの書籍や資料に触れることができるようにする。

3 本 時 4	<ul style="list-style-type: none"> ・「和のみ力」について、調べ活動を行う。 ・自分の紹介したい「すごい」「推しポイント」を決める。2つまでとする。 ・手元原稿を作成する。 ・書籍や ICT 端末も活用して、調べても良いこととする。 	<p>★目的を意識して書くことを選び、集めた資料を比較したり分類したりしている。(ワークシート、思考・判断)</p> <p>・担任と主幹学校司書で、書籍だけでなく、ICT 端末で情報にたどり着くまでの二次元コードなどを用意する。</p> <p>★目的を意識して書くことを選び、集めた資料を比較したり分類したりして伝えたいことを明確にしている。(ワークシート、思考・判断)</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドを作成する。 ・スライド見本を、もとに手元原稿を要約し、レイアウトなどを考え作成する。 ・載せたい写真やイラストは、スライド1枚につき、1枚までとする。 	<p>・文字入力などは、困難な場合は、指導者が行う。表紙は、指導者が作成する。</p> <p>・手元原稿が出来ていない場合、原稿ができてから、スライドに取り組むようにする。</p>
6 7	<ul style="list-style-type: none"> ・発表練習をする。4人グループで同じ班の友達に紹介する。(1人3回できる。) ・お互いに発表し合うだけでなく、主幹学校司書や普段関わりのある先生方に来ていただき、発表する。 	<p>・互いのいいところや、スライド作成、発表の工夫などを認め合うようにする。</p> <p>★発表に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見つけている。(主体的に取り組む態度)</p>

9. 本時の学習

(1) 目標 (3/7時間)

- ・テーマについて、図書や ICT 端末を活用し情報や材料を集めることができる。
- ・集めた材料を比較・分類し、要約しながら、目的に応じてまとめることができる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点 (指導者の指導・支援)	評価規準
1. 前時までの、「和と良さ」について、調べたりまとめたりした学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・手元原稿を確認する。 ・これまでは、書籍を使って調べていたことを確認し、今回はさらに深く調べることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一資料 ・手元原稿用紙
2. 本時の学習のめあてを知る。	<div>めあて：和のみ力について 調べよう</div>	
3. 「み力」の意味を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・人によってみ力を感じる場所は違うが、伝 	

<p>「すごい！」 「推しポイント」</p> <p>4. 調べ方とまとめ方の見本を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手元原稿の見本を確認する。 ・2つまで書いてもよい。 <p>5. 調べ活動に取り組む。</p> <p>6. 次時も引き続き行うことを知り、学習を終える。</p>	<p>え手である児童本人がみ力と感じたことを紹介するということを押さえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手元原稿を作成するにあたって、ICT 端末も活用して、調べても良いこととする。 ・資料の内容を要約することが困難な児童は、資料の中の「すごい」と思うことが書かれている文の重要な語や、文章を選ぶことを助言する。 ・原稿が作成できたら、読み返して誤字脱字がないか、また、キャッチコピーなど考えるようにする。 	<p>★目的を意識し、資料を比較、分類している。(主体的に取り組む態度)</p> <p>★資料を目的に応じて要約し、まとめることができる。(ワークシート)</p>
---	--	---

情報整理のコツカード（1人1枚）

まとめる(要約)手順

①要約する目的(何について?よさ?ちがい?)を、かくにんする。

②目的に合った文を選んで線を引いたり、メモをしたりする。

③情報を整理するコツ


引用=文を抜き出す。「『●●●』という(本)～によると」

要約=自分の言葉でまとめる。「～は、～というよさがあります。」

「～を使って、作られています。」「～するときは、～していました。」

まとめるつなぎ言葉=「そして」「一方」「これに対して」「～だから」「して、」

じょうほうせいり
情報整理のコツ!



10. 板書計画及び学校図書館配置図 ホワイトボード

め 和の み力について 調べよう

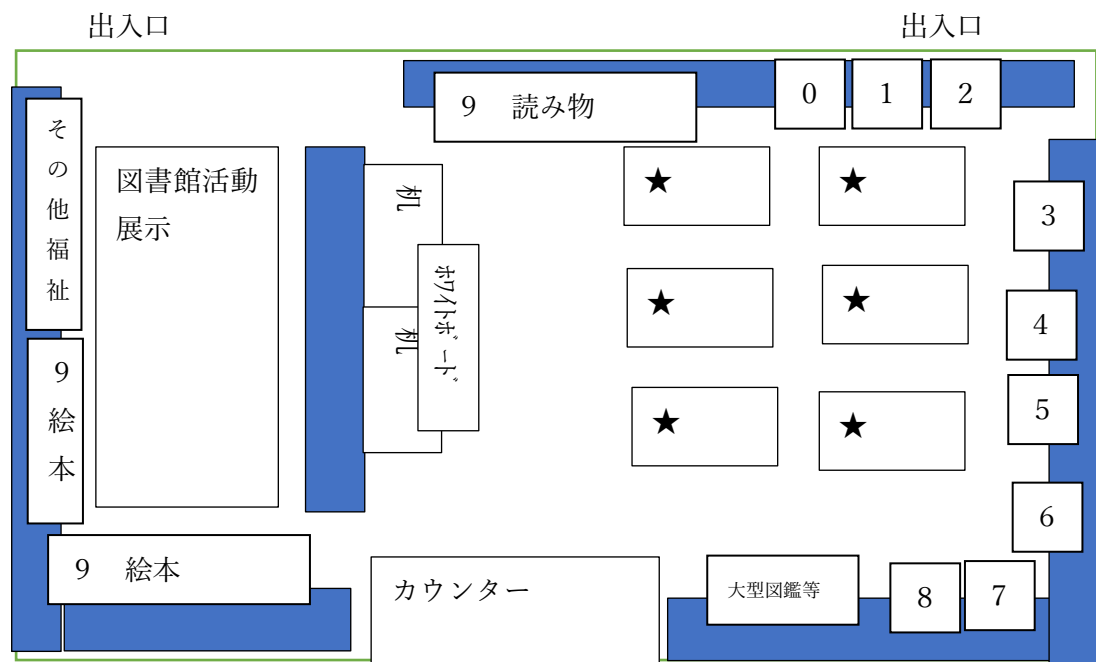
み力＝「推しポイント」、「すごいところ」

調べ方：本、インターネット

見本

二次元コードや
情報を調べるコツ (指導案：11P)

学校図書館配置図



※児童の席は、班ごとに座る。(★は児童のテーブル)

※並行読書してきた本もワゴンにのせてカホワイトボードの近くにおく。

調べ学習

	和と洋ブック	和の魅力
1	ふとんとベット	足袋(行甲足袋) ←でんでん太鼓に変更
2	風呂敷とカバン	風呂敷 (自分の家にあるから)
3	座布団とクッション	お手玉
4	緑茶と紅茶	竹馬、竹とんぼ
5	緑茶と紅茶	カステラ(和菓子)
6	ちゃぶ台とテーブル	華道
7	和服と洋服	座布団
8	和菓子と洋菓子	まっちゃ(和食)
9	ちゃぶ台とテーブル	焼き魚(和食)
10	和式トイレと洋式トイレ	みたらし団子(和菓子)
11	筆とボールペン	しょうぎ
12	ねまきとパジャマ	花火
13	米とパン	祭り(沖縄)
14	和菓子と洋菓子	着物
15	ふすまとドア	手ぬぐい
16	和菓子と洋菓子	みたらし団子(和菓子)
17	風呂とシャワー	風呂 ←温泉に変更 (自分が行ったことがあるから)
18	お正月とクリスマス	米 ←浴衣に変更 (自分の家にあるから)
19	米とパン	カステラ(和菓子)
20	曲げわっぱとプラスチックのお弁当	京扇子 ←扇子に変更 (資料が探しやすいから)
21	しょうゆとソース	手ぬぐい
22	緑茶と紅茶	瓦せんべい(和菓子)
23	和菓子と洋菓子	お箸
24	布団とベット	大福(和菓子)

児童に提示した見本記入例

くらしの中の和と洋

○ブック作成用 まとめ表

名前

和

ぞうりげた

と

洋

くつ

を比べてみましょう。

和 ぞうりげた	和 ぞうりげた	和 ぞうりげた	和 ぞうりげた
むしあつい地いきでも、 むれて不快になることは ない。	きものをきるときに、セ ットではいていた。	下駄は、むかし、ふだん のはきものとして、とても みじかにあった。	クッション性がたかく て、長時間歩いてもつかれ ない。
いいところ	いいところ	はくときやはくひと	いいところ
さむいちいきでは、足を ほごするために、けもの かわなどを使っていた。	洋服をきるときに、使わ れていた。	くつは、一般の人にとっ ては、はけるのは一部のひ とだけだった。	ファッション性があつ て、スタイルがよい。

児童に提示した見本記入例

和と洋ブック

名前

ここでは、下たやぞうりと、くつとのちがいや
よさについて しょうかいします。

ちがい

ぞうりや下たは、昔、着物を着ていた時代に、着物
とセットではいていました。また、いろいろな形のげ
たがつくられました。一方、
くつは、昔、ヨーロッパで、洋服といっしょにはいて
いました。

日本ではきはじめたのは、ぐんたいのためでした。

良さ

下たは、あさい水たまりぐらいなら足がぬれるこ
とはありません。むし暑い場所でも、くつのようにむ
れることはありません。一方、
くつは、あしをつつんで、ほごするために、はかれ
ていました。さむいちいきでも、あたたかくしてじは
くことができます。

ぞうりやげたと、くつは、それぞれの良さがあり、わ
たしたちは両方の良さを取り入れてくらしています。

み力をしょうかいしよう

★手元原こう

テーマ
ぞうり

の
み力をしょうかいます。

しょうかい(200文字ぐらい)

ぞうりは、中国から伝わりました。わ
らや竹の皮や、がまやふじなどの植物か
らできています。むしあつい、ちいきで
も、むれることはなく、風通しがいいで
す。洗ったり、乾かししたりして、お手入
れもかんたんです。

スライド②

【ぞうりの良いところ】

- ・風通しがいい
- ・お手入れがかんたんでいい

すごいところ、押しポイント(200文字ぐらい)

ぞうりの押しポイントの一つめは、
クッション性があることです。足にびつ
たりくつつくので、長い間歩いてもつか
れません。二つ目は、植物からつくられ
ていることです。自然の植物からつくら
れて、環境にとってもいいです。

スライド③

【ぞうりの押しポイント】

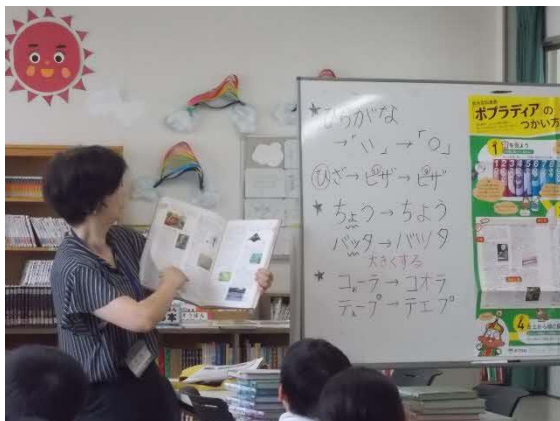
- ・クッション性あって、長
時間あるいてもつかれない。
- ・植物からつくられている
から、

【授業の実践記録】

「暮らしの中の和と洋」実践記録

(1)「暮らしの中の和と洋」

第Ⅰ次 百科事典の使い方



主幹学校司書による説明

児童への「ハテナシート」の活動紹介



↑

ハテナシートの
内容を調べる児童→



ハテナシートの中から、2人で1つの質問を選び、全体の前で調べた内容をクイズとして出題する様子

第Ⅱ次 要約の仕方を学習するところ



「要約」の仕方の説明の様子



まずは、自分でサイドラインを引いてみる。

- ①「始め：話題提示」「大きな問い」を説明するために重要な言葉に線を引く。
- ②線を引いた内容をペアで交流する。（支援として、文章に番号をつけて、その中から一つ文章を選ぶこともよいとする。）
- ③文を短くする。（文を一つ選んだ場合は、それを書き写すが、文末を常体にする。）



線を引いた箇所をペアで交流している場面



要約した内容を全体で交流している場面

要約ワークシート児童記入

くらしの中の和と洋 要約ワークシート③

中 ② テーマ 和室と洋室のまじり方のよさ

まず、それぞれの部屋の中ですることのこを覚えてみましょう。

わたしたちが和室ですととき、ざぶとんをしくかしかないが別に、たたみの上に直接すわります。それに例して、洋室では、いすにこしをかいてすわるのがふつうです。

和室、洋室ですること方には、それぞれどんなよさがあるのでしょうか。

和室のたたみの上では、いろいろなしせいをとることができる。もちろんとしまではせいぞろいするぐとにひざをくずしたり、あぐらをかいたりしてすわります。これらふつうでもできます。

人と人との間かくが自由に寛えられるのもたたみのよさです。相手が親しければ近づいて話、互の人の場合には少しはなれて話すというように、自然にまよりの調整ができます。また、たたみの場合には、多人数が多くても、間をつめればみんながすわります。

洋室で使ういすにはいろいろな種類があります。くつろぐ、勉強するなど、それぞれの目的に合わせたいせいがとれるように、形がくふうされています。ですから、長時間にじせいですわっても、つかれが少なくてすみます。いすにすわっているとなつたから、次の動作にうつるのがかん單であることも、いすのよさです。体の重みを前にうつし、こしをかければ立ちあがれます。上半身の移動もわずかです。

あまりつかれなく、

で	う	い	て	洋	
あ	す	て	い	室	
る	次	に	い	る	
の	の	す	て	は	
も	勤	お	も	長	
	作			時	
い	に	て	あ	間	す
す	う	い	ま	同	の
の	っ	る	り	じ	形
よ	る	じ	つ	し	が
さ	の		か	む	く
	あ	の	れ	い	ふ
	あ	の	な	で	う
	人	い	い	す	こ
	単	か		あ	れ

90 75 60 45 30 15

くらしの中の和と洋

要約ワークシート①

始め テーマ（話題）を提示

① 日本では、くらしの基本である「衣食住」のどれにも、「和」と「洋」が入り交じっています。②「衣」には和服と洋服があり、「食」には和食と洋食があり、「住」には和室と洋室があります。③「和」は、伝統的な日本の文化にもとづくもので、「洋」は、主として欧米の文化から取り入れたものを指します。

④ さては、「衣食住」の中の「住」を取り上げ、日本のくらしの中で「和」と「洋」それぞれのよさがどのように生かされているか、考えてみましょう。

る	や	中	住	
	か	で	を	こ
	ど	の	取	こ
	の	和	り	で
	よ	し	上	は
	う	と	げ	
	に	生	洋	衣
	か	れ	日	食
	さ	そ	本	住
	れ	れ	の	の
	る	ぞ	の	中
	か	の	あ	の
	考	の	し	の
	え	よ	の	

0 75 60 45 30 15

[illegible]

要約ワークシート⑤

()

このように見てくると、和室と洋室には、それぞれよさがあることが分かります。わたしたちは、その両方のよさを取り入れてくらししているのです。

ここでは、日本の「住」について取り上げましたが、「衣」や「食」についても、くらしの中で「和」と「洋」それぞれのよさがどのように生かされているか、考えることができてしょう。

A diagram of a circular arc with a radius of 15 cm. The arc is labeled with angles 90, 75, and 60. The radius is labeled 15 cm.

ちから

全体を見て和室のほうか文藝のほうか書いてくるから。



○ブック作成用 　まとめ表

和が子

洋が子

を比べてしようかいしよ

きせつにあわせて
が作られている
のがとくをう。

一方よいところ

和が子にくらべてタンパク
じつとしじつが多いのが
とくちょう。

方ちがい

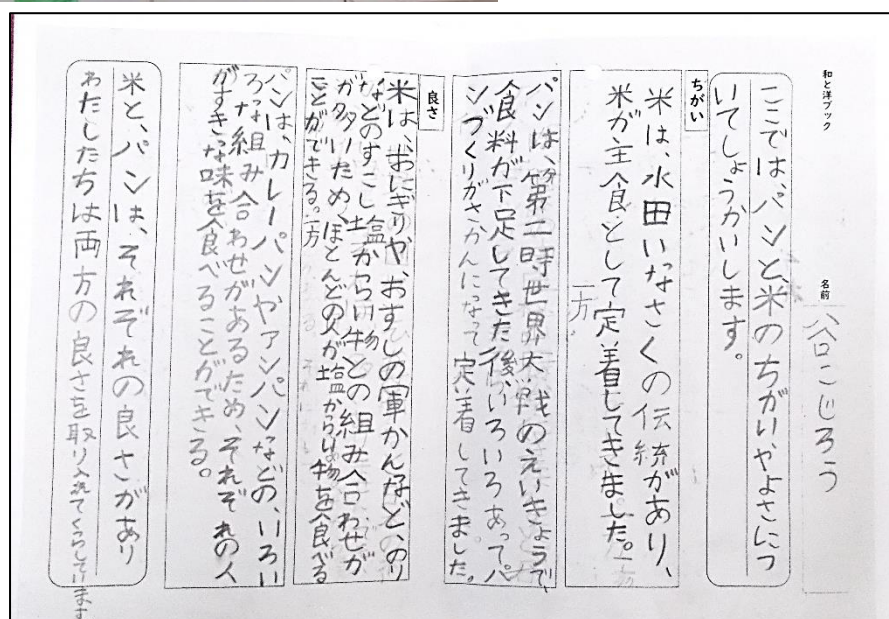
方ちがい

わいてあるものが多く
水(カ)がクリームたまご
を多くふくむものは
日持ちが長く短くバタ
ーとゆう麦を主原料
したものは長い間日持
ちする。

食べる時

おわつとくべつ
な祝いの日など
にお食づられる。

第Ⅲ次 和と洋ブック



発表会リハーサル(上)と本番(下)



聞いていただいた先生方の感想をいう場面

(調べたことは、発表する場を設定しています。

学校図書館を発表会場にして、先生方をご招待しました。)



ブックを作成、発表の日の児童の一言感想（連絡帳より）

⑤ 国語の時間に和と洋のワークシートを
発表しました。きんちゅうしました。うまくいえたと
思います。楽しかったです。

⑤ 今日の、4時間、和と洋の発表
で、校長や先生が、いたから、きんちゅう
うしたけど、うまくいえたと、うれしな
たです。また発表したいです。

⑤ 今日、和と洋ブックを作って、ひょうし
の和が、洋がしの絵をかいて、先生が
「おいしそう。」
と、言ってくれて、うれしかったです。

⑤ 今日、和と洋の発表が上手くいて、
うれしかったです。

⑤ 今日の、3時間目に、くらしの発表があるので、きんちゅう
るか、かからないけど、楽しかったです。

発表後の児童の感想

- 和服と洋服が全然違うことがわかった。
- 和菓子は、季節によって、違っていることがわかった
- 紅茶は、途中までは同じ作り方をしている、途中から違うことがわかった。
- 和菓子は、賞味期限が洋菓子とちがうのを初めて知った。
- パンについて、いままで考えたことなかったけど、いろんな食べ方があることを初めて知った。
- 「和菓子は学校の給食でも、でたことがある（季節の行事で出ている）。」
- 紅茶は、それぞれ、体にいい作用が違うことがわかった。」
- 和式のトイレは、着物を着ている人にとって、便利だとわかった。

⑤ 今日、国語の発表
しました。やり切れまし
た。うれしかったです。



主幹学校司書による、読み聞かせ
『たか子』清水真裕 文/青山友美 絵 童心社

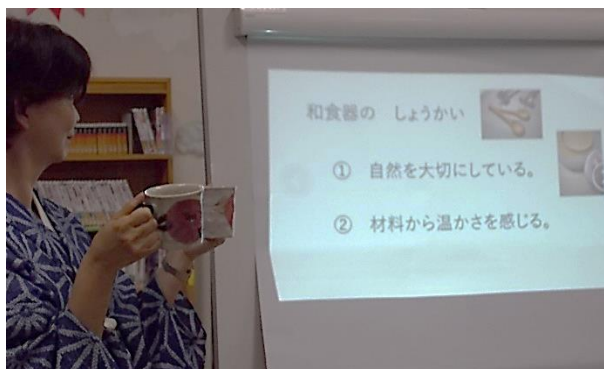
(2)「和のみ力」について調べよう

Ⅰ 時間目 指導者によるデモンストレーション



山下先生(和食器)

仲宗根先生(剣道)



発表用スライドをすべて先生方にも考えていただきました。

仲井間先生(すもう) 右



城先生(和食)

辻主幹学校司書(和紙)(下)



展示用の和食器、手ぬぐい、和紙、お香など



「和紙」に興味をもって触る児童



先生方の発表に質問や感想を述べる児童



先生方のデモンストレーションを見た児童の感想（連絡帳より）

先生たちのしゃつかいで、いろいろなことを知れたし、みんなの感想を聞いて、ほんとに思いました。

今日の国語の時間、いろいろな和の道具が知れてうれしかったです。

図畫の時間のとき、おすも、つさんは、勝負に勝ったと、よじょとかいわないので、びっくりしました。

山下先生、中いま先生、辻先生、ほどの先生が私たちのためにありがとうございました。ハカからないことをめっちゃ知れたからうれしかったです。

三時限目の先生たちの和の発表が知らなかったことも、知れたしくわしく調べていたからわかりやすくすごかったです。

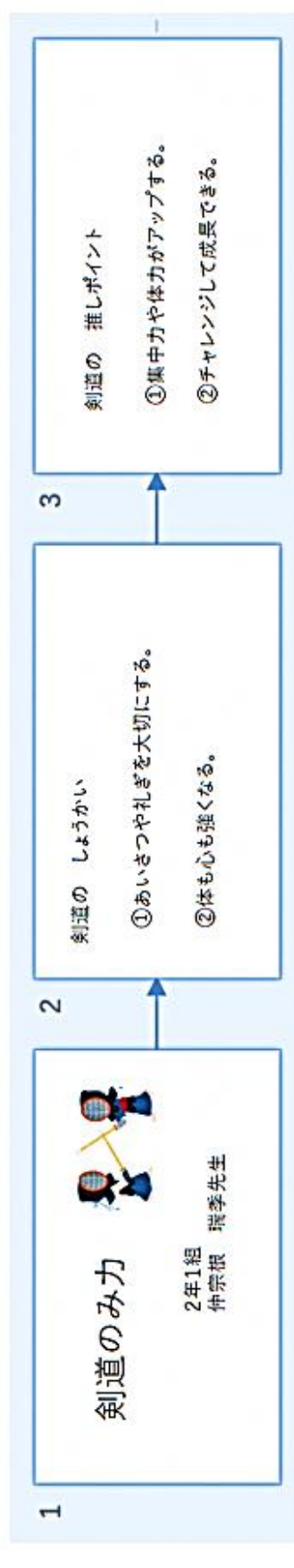
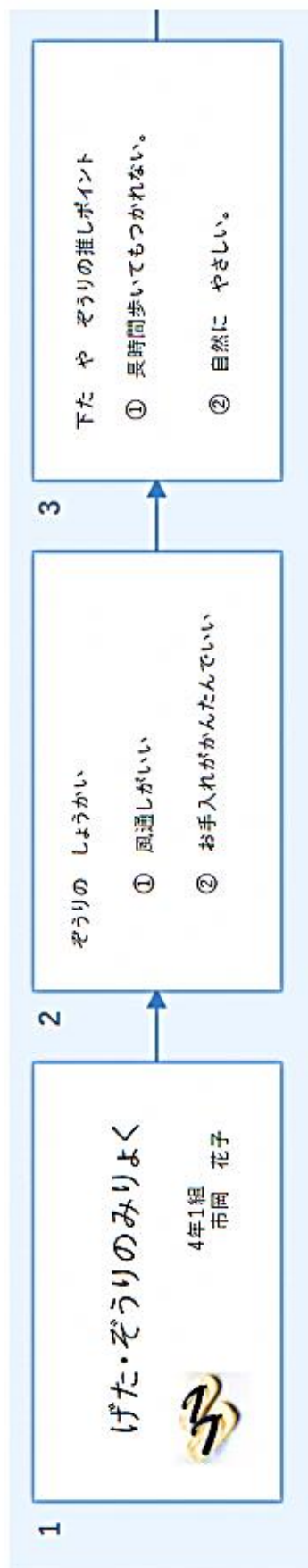
三時限目の国語の先生が発表をした和紙が何年もちつなくて、初めて知りました。

和のみ力を知って自分もみんなに言いたくなった。

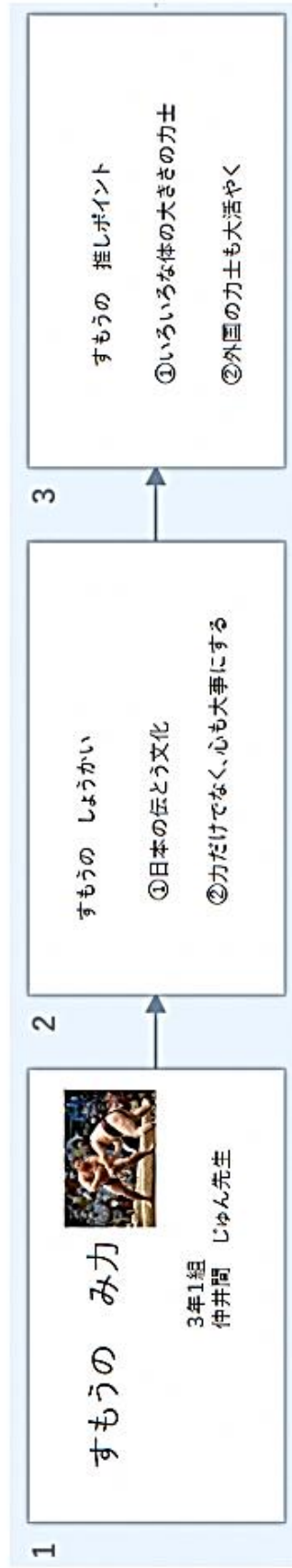
国語で先生の和のみ力の発表で、すもう、けんどう、和食器、和食、それぞれ考えたことがなかったの、いろいろなことが知れて、うれしかったです。それがあるんだな。と思いました。

三時限目のとき、いろいろな和のもの、くわしくしらべていてわかりやすかったし、知らないこともしれてうれしかったです。あと和紙が千年くらいもつことがびっくりした。水につけても、だいいやうだと知ってすごいなと思いました。

☆とよでつじ先生の和食器が、いろんながらが、きいたたので、こんど買おうと田んぼしました。



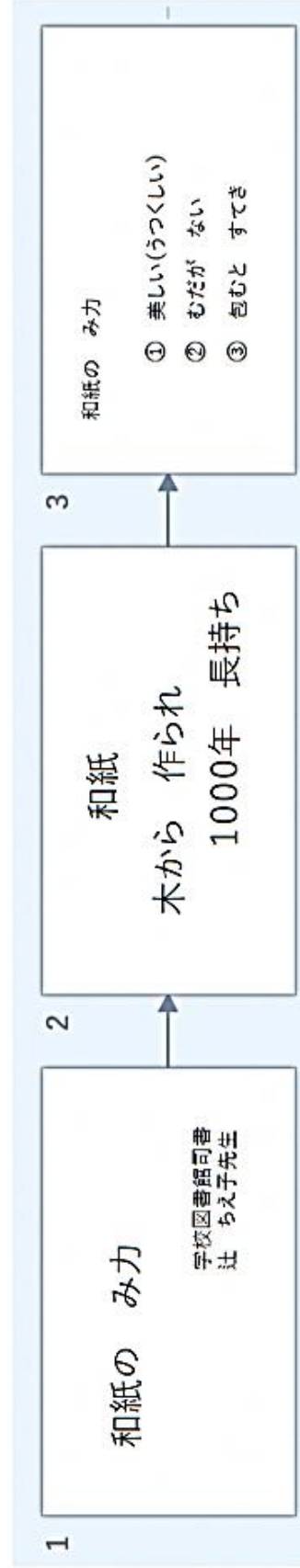
仲井間先生（すもう）



城先生（和食）



辻学校主幹司書生（和紙）



授業実践を振り返って【成果○と課題●】

- 本文の読み取りに入る前に、主幹学校司書と協働し、図書館で百科事典の使い方（はてなシート）の学習をしたり、調べるときの手立てなどを振り返ったりした。事前に行ったことで、どの児童も調べる方法を理解できたため、本時で多くの児童が意欲的に取り組むことができた。



- 学習の初めに、調べる内容「和の魅力」と、調べるツールの良さなどを振り返った。そうしたことで、多くの児童が、本や一人一台端末（以下、端末）の両方の良さを理解して、自分が調べるためのツール（本か端末か）を選択することができた。



- 主幹学校司書と児童の調べたい内容を共有しておくことで、調べ学習の際に、個別の支援を行うことができた。特に、資料がなかったり、内容や読み方が難しい資料であったりした場合、最適な資料を用意していただくことができた。また、一人一資料が手元にあることは、個別最適な学びを行う上で、重要であると言える。

- 主幹学校司書と相談し、常に児童に見本を展示、提示しながら学習を進めた。そうすることで、どの児童も見通しを立てて行うことができた。特に、先生方による和の魅力発表のデモンストレーションを設定したことは、児童にとって「楽しそう」と感じた様子で意欲的に取り組むことのできるきっかけとなった。（参考：先生方のデモンストレーションを見た児童の感想）

- 本单元において、本時以外でも図書室で学習をおこなった。児童にとって、これまでの学習で図書室が本を読むだけの場所ではないと認識しているが、さらに情報を得て活用する場所という認識に広がった。

- 「和の魅力」調べの際に、調べるものについて詳しく理解していない児童もいた。本時では、数名の児童が調べたいものについて「言葉や文章で説明する」までの知識がなかったため、どう書けばいいかわからない様子であった。百科事典などで、調べて確認するほうがよかった。（主幹学校司書の配慮により、百科事典で調べることができた。）



「思いや考えを豊かに表現し、相互に理解を深め合う児童の育成」
～自ら考え、自ら学ぶための国語力と豊かに生きるための実践力を育てる指導～

「子どもの『個別最適な学び』と 『協働的な学び』に役立つ 学校図書館運営の実践」

令和7年10月8日（水）

大阪市立南市岡小学校

校長 木村 幹彦



国語・図書館教育

- 視点① 「論理的思考力を鍛えること」
視点② 「心内語を書くこと」
視点③ 「言語活動の工夫」

これらの学びを進めることで、子どもたちは、

- 基盤となる国語の知識を生かし
- 論理的に考えることや、相手の気持ちを想像すること、感じたことを伝え合う経験をする。
- それが、これから生きていくための知識や経験として蓄積され、『生きる』力として生かされていく。

このような国語・図書館教育を、
「心を育てる国語科教育」としている。



(「産経新聞」
2020年8月26日)

大阪・生野南小が実践「生きる教育」

命・体を大切に
思いを言葉に

校内暴力消え学力向上

[illegible][illegible]

「思いを言葉に
 命・体を大切に」

「『生きる』教育』とは何か

- ▶『『生きる』教育』：子どもたちが直面する「人生の困難」を解決するために必要な知識を習得し、**友だちと真剣に話し合うことで安全な価値観を育む**ことをめざす教育。子どもたちにとって一番身近であり、心の傷に直結しやすいテーマをも授業の舞台にのせ、社会問題として捉えなおすとともに、授業の力で子どもたち相互にエンパワメントを生み出し、**個のレジリエンスへつなげることをめざしている。**

(西澤哲・西岡加名恵監修『「『生きる』教育」——自己肯定感を育み、自分と相手を大切に
する方法を学ぶ』日本標準、2022年)

「生き方」を教える他のアプローチ

- ・道徳:
徳目主義の問題点 → 「考え、議論する道徳」
「自主、自律、自由と責任」「希望と勇氣、克己と強い意志」(思いやり、感謝)「相互理解、寛容」「道徳精神、公徳心」「家族愛、家庭生活の充実」「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」など、
毎年22項目
- ・生活綴方
(作文による自己表現と集団での交流)
- ・生活指導 (集団づくりを通した自治の指導)

「『生きる』教育」

- 子どもたちの「認識」へのアプローチ
- 徹底した教材研究
(法学、医学、心理学、福祉学…)
- 子どもたちに獲得させたい理解を
目標として明確化
- 効果的な指導方法の開発
(ハズオン、マインドオン)

2025年度 南市岡小学校の「『生きる』教育」

【小1・6】虐待予防教育

【小2・3・4
治療的教育】

- 【小1】 ふれること、ふれられることについてかんがえよう
～プライベートパーツ～
- 【小2】 人との距離感って？
～パーソナルスペースについて考える～
- 【小3】 子どもの権利条約を知ろう
～今の自分と向き合う～
- 【小4】 10歳のハローワーク
～ライフストーリーワークの視点から～
- 【小5】 SNSについて考えよう
～アサーティブ・コミュニケーションの4原則～
- 【小6】 デートDV
～愛？ 支配？ パートナーシップの視点から～

[illegible]



生野南小学校での経験から

①緻密な生活指導

②国語・
図書館教育

③『生きる』教育

好循環

「いじめ」の無い学校

安全・安心・愛情を感じる

心を育て、言葉で伝える

心の豊かさをもたらす

人の尊厳を学ぶ

自分も人の心と体を大切に

「ことば学びを大切に」「学校生活を楽しく豊かに」

「思いや考えを豊かに表現し、相互に理解を深め合う児童の育成」

10

南市岡小学校の

学校図書館活用



学校図書館主任
山下 啓子

主幹学校司書との図書館運営について

○主幹学校司書の配置が、週4日

○図書館開放が 8:15 ~ 放課後まで

○児童が知りたいことを自分で調べられる環境づくり。

○貸し出しを1人3冊にして、分類9を1冊入れる。

○物語文を読むことが、国語の読解学習とつながってる。

○図書委員会の活動の充実

本校の実践と 授業の振り返り



研究部長・4-1担任
中林 真理子



7月末の教材分析委員会・指導案検討会の様子

今回の「くらしの中の和と洋」の授業も指導案検討会を9月3日行いました。

- 9月** 指導案検討会及び模擬授業（市立図書館の本を活用）
本校、管理職・教諭全員で指導案を確認
みなさんに意見をいただきました。

4日（木）

- ・ 百科事典の使い方・並行読書（市立図書館の本）
- ・ 本文要約（6時間程度）

★この辺りて、図書の時間にプチ打合せ（進度）

★24人のテーマを名簿にして渡す。

- ・ 和と洋ブック作成

★調べるときに、そのものの自体を見たことがな

くわかっていない児童がいたため、「ポブラディア」を使っ
てはどうかと、辻先生から提案→使うとうまくいった。

- ・ 発表

★図書室を発表会場にすることを相談。他の先生方に声かけ。



授業までの流れ

R7. 4月

単元「くらしの中の和と洋」を公開授業とすることを相談・決定

6月

中林（授業者）と辻主幹学校司書（以下、辻先生）で内容を相談
団体貸し出しの本についても、言語活動（「和と洋ブック」と「和
のみ力」）を伝える。

7月

学習指導案作成（第1案→訂正→・・・第8案まで）

この間に、田村先生、木村校長、山下先生に助言いただく。

辻先生を通して、団体貸し出し申し込み

8月末 打合せ（公開当日について等）

市立図書館より調べ用の本が届く（100冊以上）

→NEXT

10月

・ 1日（水）デモンストレーション

★行うにあたって、展示スペースや、内容などを実物がわかる
ようにしようと相談。

★ブレ授業（2組）にあたって、「み力」部分の内容を早くか
ける児童がいるかもしれないため、スライド作成まで紹介する
ことを決めた。

○本かパソコンかと児童が迷った際に、
どんな情報が必要か確認することとした。

○本は読み仮名があり、わかりやすいことを
確認し、児童の指導にあたった。

○資料がない場合や、目的に応じてたものがない場合はパソコンを
使用するようにした。



かけがえのない 学校図書館

ことば学びを大切に



学校図書館の利活用

学校生活を楽しく豊かに

2025/10/8 田村泰宏

【公開授業と実践報告に対する講評】

大切な役割

「学校図書館の利活用と
学校司書による授業支援」



【パネルディスカッションテーマ】

「大阪市の子どもの学力育成と図書館教育」
— 学校図書館活用から公共図書館との『連携・協働』へ —

Point 1

研究テーマを
意識しよう

授業支援を
心がけよう

【南市岡小学校の研究テーマ】

思いや考えを豊かに表現し、相互に理解を深め合う児童の育成
～自ら考え、自ら学ぶための国語力と豊かに生きるための実践力を育てる指導～

- (1) 「明るく前向きに他者と関わる力を育てる国語科読解指導の研究」
- (2) 「子どもの『個別最適な学び』と『協働的な学び』に役立つ
学校図書館運営の実践」
- (3) 「心と体を豊かに育む南市岡小学校版「生きる」教育」

Point 2

研究授業がチャンス

【「研究授業」という文化】



Point 3

研究授業のねらいを
共有しよう

【話し合いを通して、ことばの良さを
しみじみと感ずる授業に！】

- ① 自分事として学びに向かうこと
 - ・ 話題の背景に関心をもつこと
 - ・ 考えの形成・交流を促すこと
 - ・ 表現の場が保障されること
- ② 学習方略を身につけること
 - ・ 話題に関わる基礎的知識をもつこと
 - ・ 文章読解の知識・技能をもつこと
 - ・ 比較し俯瞰する思考ができること

南市岡小学校の
国語科研究授業
から浮かび上
がる大切な気づき

各項目にあてはまると考えられる学習活動①

① 自分事として学びに向かうこと

授業者と学校司書との協働

- 話題の背景に関心をもつこと
 - ・ 3年社会科『昔の道具』の思い出
 - ・ 大阪くらしの今昔館のウェブサイト視聴
 - ・ プレゼンのデモンストレーション
- 考えの形成・交流を促すこと
 - ・ どの子も「要約」することができる
 - ・ 学習形態（全体・個人・ペア・グループ）
- 表現の場が保障されること
 - ・ ブックづくり
 - ・ プレゼン

各項目にあてはまると考えられる学習活動②

② 学習方略を身につけること

- 話題に関わる基礎的知識をもつこと
 - ・ 意味調べ
 - ・ 百科事典の使い方指導
- 文章読解の知識・技能をもつこと
 - ・ 説明文の読み取り手順の思い出
 - ・ 要約の仕方
テーマの提示⇒サイドライン⇒限られた文字数でまとめる
- 比較し俯瞰する思考ができること
 - ・ クリティカルシンキング
さらに奥深く文化を知るきっかけづくり

授業者と学校司書との協働

読解指導でめざすこと

【 比較し俯瞰する思考ができること 】

説明文

- 筆者の気持ちや思い・願いを考えて話し合おう
- 【定義】「内容、形式や表現、信頼性や客観性、引用や数値の正確性、論理的な確かさなどを『理解・評価』したり、自分の知識や経験と関連付けて建設的に批判したりする読み」

資料の準備：本＋ICT活用

学習のめあて：「和のみ力について調べよう」

「み力」って何？：「すごい」「推しポイント」

「生きる教育」へ

クリティカルシンキング

協働の成果=こんな事例も

【1年生「どうやってみをまもるのかな」でブックづくり】



「コミュニケーションセンター」
としての学校図書館

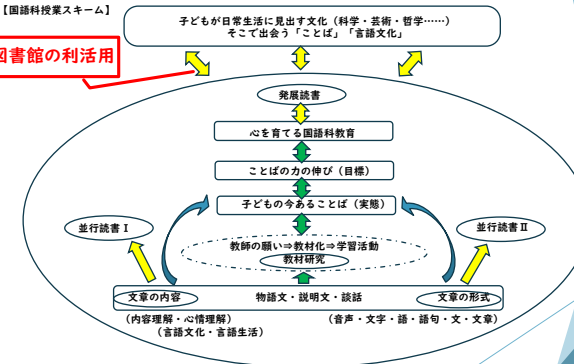
学校図書館に
展示すると、
お便りが届く。

Point 4

学校図書館で学びに奥行きを

参考：【国語科授業スキーム】

学校図書館の利活用



Point 5

手間ひまかけて確実に

〔学校図書館活用の活用の定型〕

- 1 計画：年間指導計画の共有
- 2 打合せ：授業のねらいを明確化
- 3 準備：ICT環境 公共図書館も
- 4 実践：子どもへの対応に集中
- 5 評価：より効果的な取り組みに

1サイクル
2～4か月

かけがえのない学校図書館に

「美術館が美しさの水準を示す役割を担っているように、図書館はわたしたちの社会がもっている知とたのしみの水準を表す場所ではないでしょうか。」

『子どもと本』松岡享子著〔岩波新書（新赤版）I533〕
：2015年岩波書店刊・ISBN9784004315339（P168L5～L6）



令和7年度 大阪市教育局「がんばる先生支援」グループ研究A
大阪市立南市岡小学校 公開授業研修会・講演会
思いや考えを豊かに表現し、相互に理解を深め合う児童の育成

「子どもの『個別最適な学び』と『協働的な学び』に役立つ学校図書館運営の実践

学校図書館活用の極意と その実現のための極意

20251008

伊勢市教育局事務局 教育メディア課

読書推進課係 子ども読書活性化担当

主幹 宮澤優子

宮澤優子と申します

- ・伊勢市教育委員会事務局教育メディア課 子ども読書活性化担当 主幹
- ・Google認定教育者Lev.1・2
- ・GEG Minami Shinshu共同リーダー
- ・教育著作権フォーラム初中等WG幹事
- ・日本デジタル・シティズンシップ教育研究会専門委員
- ・農家のお母ちゃん



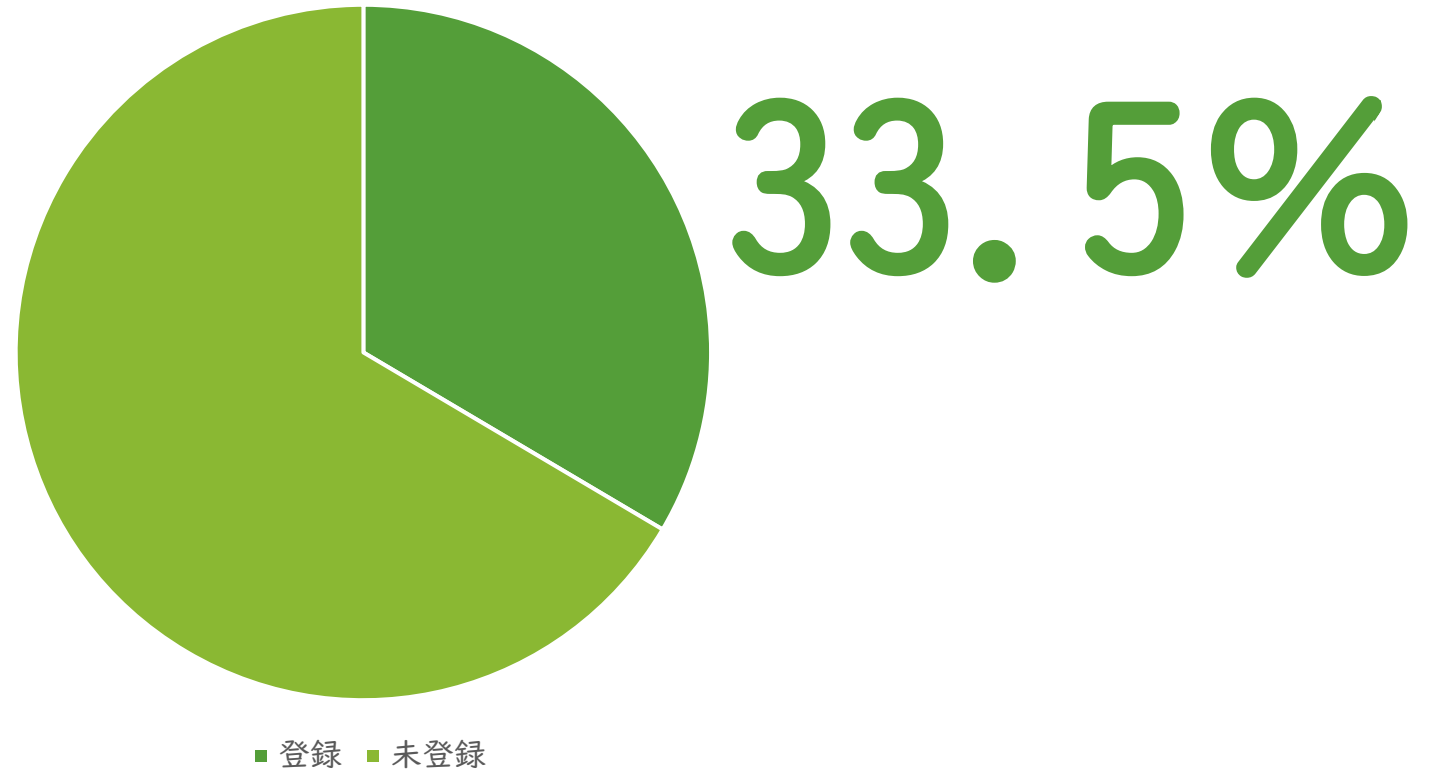
主戦場が学校図書館の学校司書です

学校図書館の話の前に、

公共図書館の現状から学校図書館の在り方を考える

公共図書館の利用「登録」者

公共図書館利用登録数の人口に占める割合



誰がどのくらい 公共図書館を**利用**しているのか

三根慎二（三重大学 人文学部） 上田修一（立教大学 文学部）

4. 結論

本研究の結果から、

1) 公共図書館の**頻繁利用者は 14%程度**

2) 図書館の利用には、継続性が見られ、頻繁利用者、中間利用者、非利用者がいる

3) 公共図書館の利用と関係が見られた伝統的な要因は、本研究においても多くは有意であるが一部には有意差はないことがわかった。

今後は、多変量解析等を行うことによって、図書館の利用頻度と各種変数との相互関係を分析する。



施設の問題か？市民の問題か？

× 2割の市民しか「使わない」

○ 2割の市民しか「有効に使えない」

この状況に学校図書館はどう影響しているでしょう？

図書館は地域の情報拠点


図書館 \neq 「図書＝本」の館

「情報拠点」である図書館を
有効活用できる市民



それを育む学校図書館

図書館を有効活用できる市民への 道筋



家庭教育

学校教育
(学校図書館)

社会教育
(公共図書館)

学校図書館が機能していることが前提

学校図書館のアドバンテージ

即効性

- 学びの場で指導が入りやすい

網羅性

- 全児童生徒、教職員がもれなく利用者

必要性

- 学習指導要領に活用が明記されている

確実性

- 教科学習との連動による活用の場の担保

学校図書館からテコ入れする理由

公共図書館の
非来館者に
リーチ

子どもたちの
図書館
活用能力向上

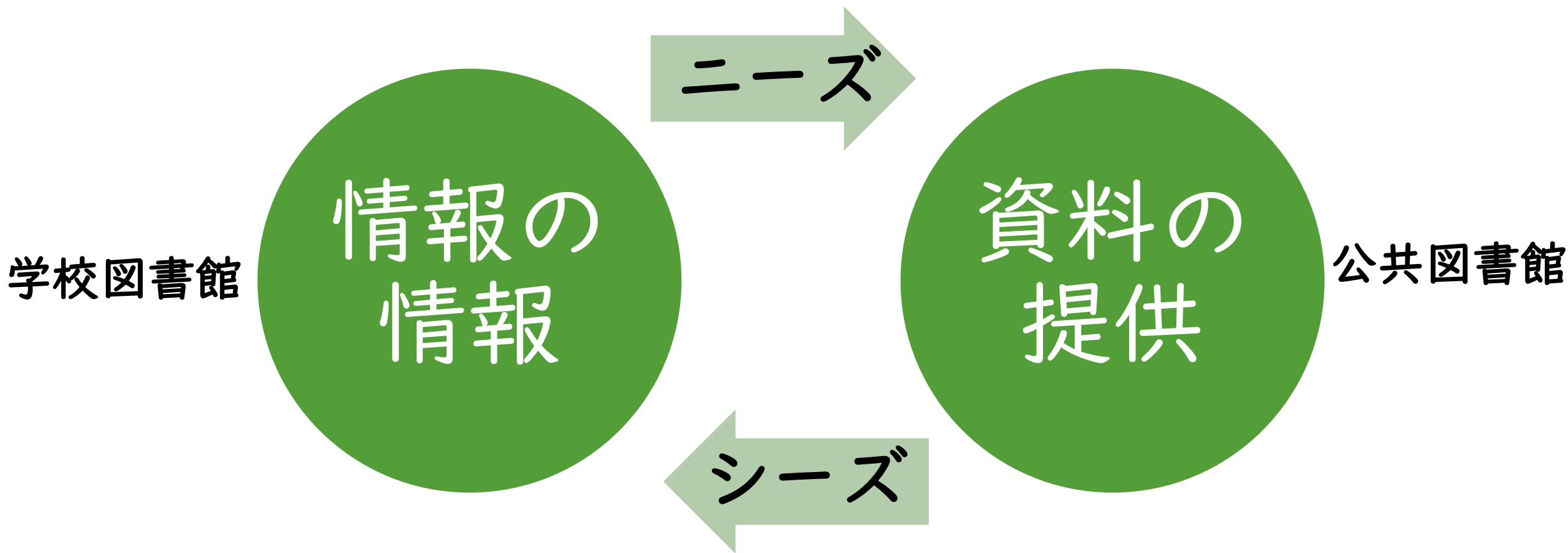
図書館
活用能力
獲得層が
厚くなる

未来の図書館
利用者像が
変わる

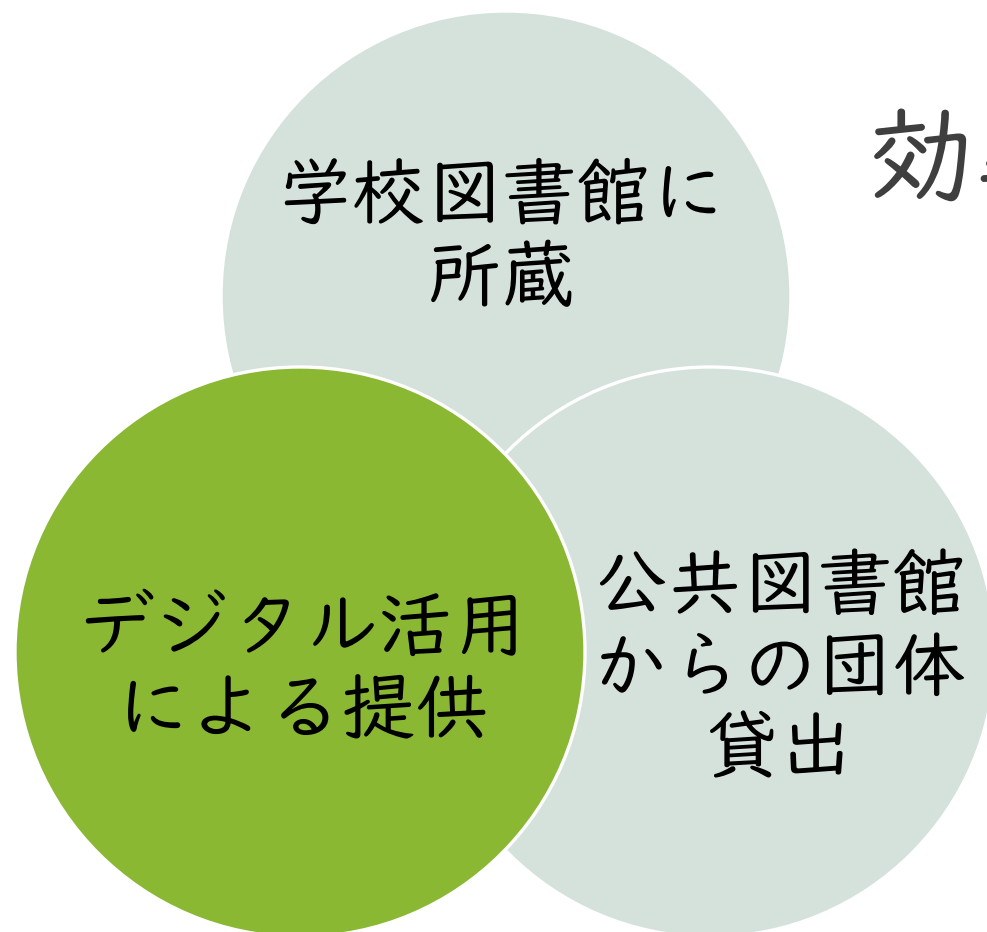
公共図書館との「連携」

一方的な「支援」ではなく、「連携」をめざして

一方的な「支援」でなく
両者による「協働」のために



提供資料（もしくは情報）のレベルと コレクション



効率的なコレクション構築

- ・ 中長期**計画**
- ・ 公共図書館との**分担収集**
- ・ デジタルデータでの**代替**



「協働ポイント」はたくさんある！

ただし！


こうしておけばいい「だろう」

こういうものが必要「だろう」

この本なら必ず役に立つ「だろう」

○年生なら、このくらい「だろう」

はお互いに禁物。



協働
ポイント

校長は誰？

司書教諭って？

学校司書は誰？

児童生徒数は？

何をしてほしい？

これいるでしょ？

学習セット！

どんどん依頼して！

会おうよ！



館長は誰？

連携担当者は誰？

児童担当は誰？

蔵書数は？

何をしてくれる？

わかってない！

学習セット？

今すぐ欲しいのよ！

学校図書館の 環境を整える

～必要な環境を考える～

I : 資料・情報が十分にある①

多様な資料・情報

- ・印刷媒体


(本・雑誌・新聞等)

- ・デジタルデータ

(デジタルアーカイブ・データベース)

- ・授業に関連しない資料・情報

→ 【効果】 出会い、刺激、ひらめき



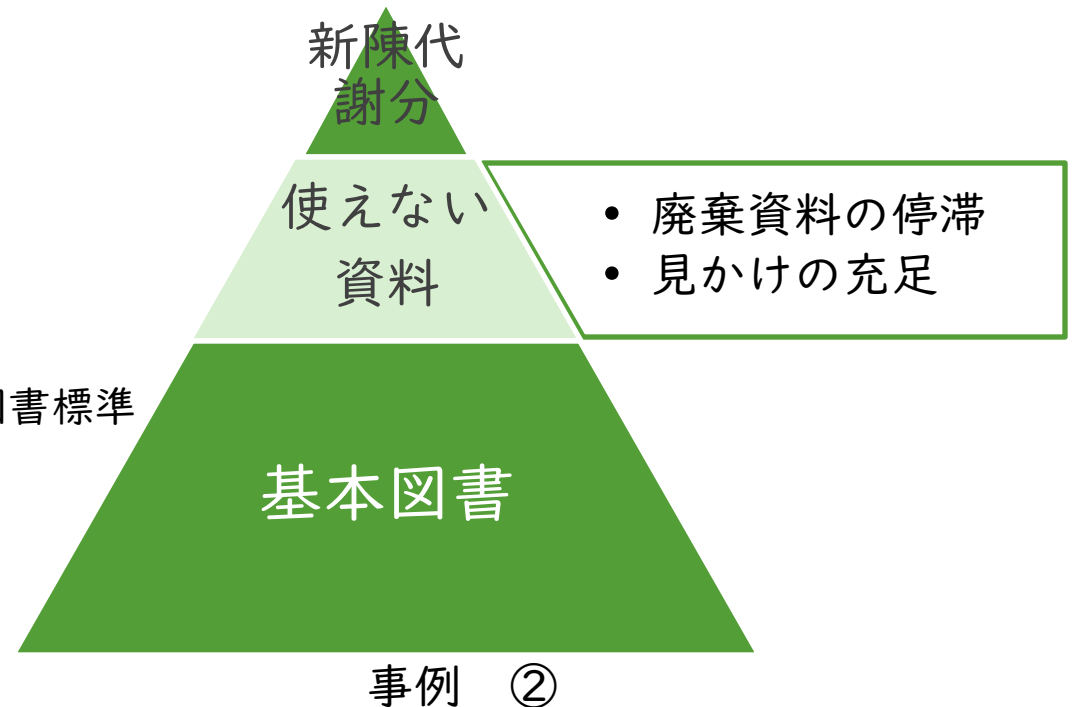
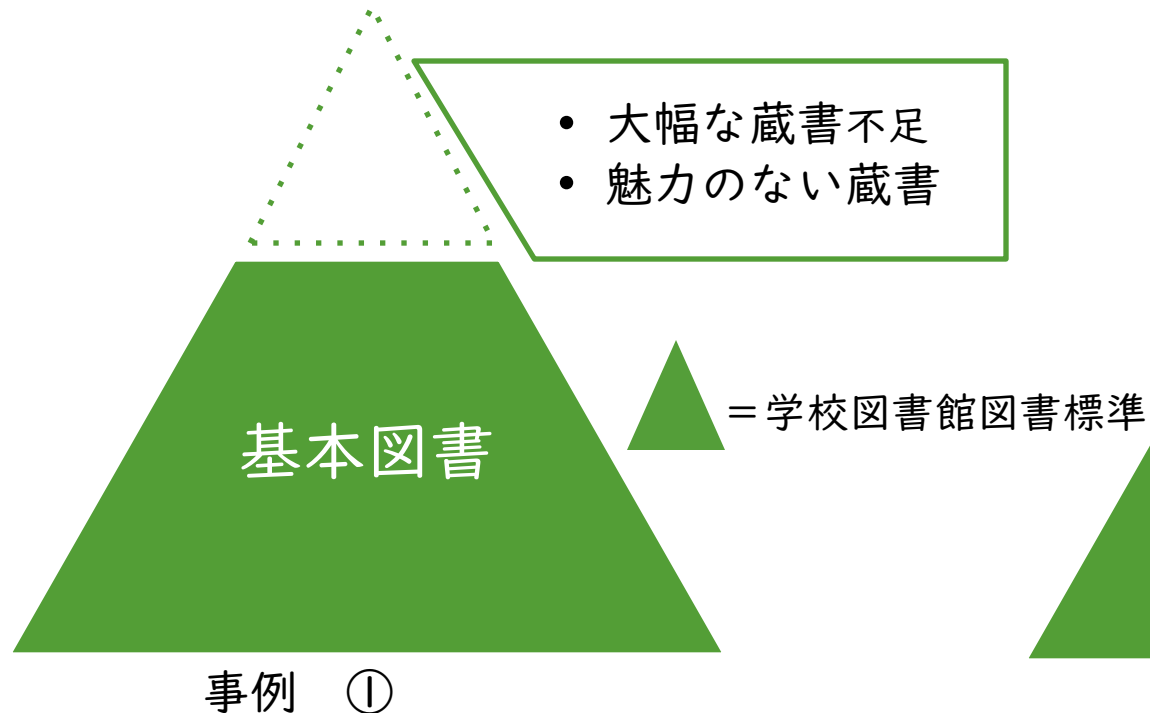
協働
ポイント

I : 資料・情報が十分にある②

十分な分量

・ 学校図書館図書標準

協働
ポイント



2：授業活用ができる

- ・なんでもある
- ・全員が一斉に使える
- ・誰もが使える
- ・いつでも使える
- ・何度でも使える
- ・場がある
- ・人がいる
- ・運用・活用計画がある



3：図書館としての空間がある

多様な活動が担保された「場」

- ・さまざまな使い方ができる閲覧席
(可動式の机、電源、照明、Wi-Fi)
- ・ディスカッションのためのツール
(ホワイトボード、電子黒板、プロジェクター)
- ・クリエイティブな場
(ラボ、キッチン、スタジオ)

4：心理的安全がある

- ・ 基本的人権がある

(理不尽なルールがない・秘密が守られる・拒絶ができる)

- ・ 自由がある

(何を読んでも良い・読まなくても良い)

今日の授業から

授業者と学校司書のタッグ

教材の難しさ

1、現代の子どもたちの「和」の捉え

- ・ 捉えの狭さ
- ・ 捉えの不安定さ、曖昧さ

2、第1時で扱った「洋」との比較ができない

テーマがある

図書館的に見た、丁寧な導入

- 1、たくさんの資料で「調べる」ということの
「価値づけ」が丁寧にされた
 - ・「資料＝情報」を「想い」と結びつけるため
- 2、調べる「こと」の再確認
 - ・「押しポイント」には自分の「意見」が入る

情報の担保 本もインターネットも

1、手元の資料以外の、たくさんのリリーフ資料

- ・ブックトラックにある本を紹介→司書が案内

2、インターネット検索

- ・使える情報を入手するときのポイントの確認

児童の様子から

それぞれの向き合い

本時において「活動が止まる」児童

- 1、 「み力」を「紹介したい！」テーマが ←授業者の支援
据わっていない児童
 - ・ 何を調べたらいいかわからない！
- 2、 自分の「意見」と合致する情報に ←学校司書の支援
辿り着けない児童

Aさんの様子

★調べる時間の大部分を、

小さなため息と共に本をめくって過ごした。

→教員の声がけにより、押しポイントを「認知」

★欲する情報が明確になってからのスピード

=知りたいこと、調べたいことが定まらないと

調べられない

学校図書館活用に取り組む

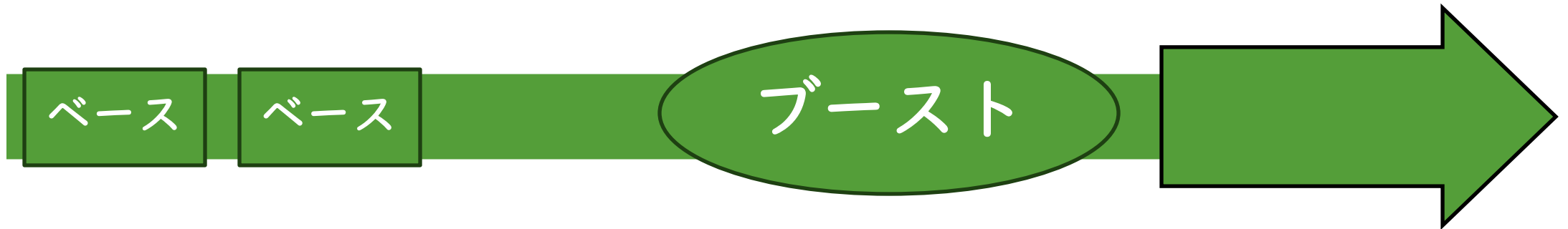
今日の公開授業での学校図書館活用から

学校図書館の授業支援

学びの
ベースを
固める

学びを
ブースト
する

学校図書館の授業支援



授業の流れ→

学びのベースを固めるための支援

学習の基盤たる様々な基礎知識やリソースの提供

- ・ 学びのスタートのため
- ・ 学びの基盤を固めるため
- ・ 学びのスピードを保つため
- ・ 学びが迷走しないようにするため
- ・ 学びの方向性をそろえるため

⇒ 学びの土台をかため、積まれる学びを安定させる

南市岡小学校の取り組み①

指導案 P3

①児童の約半数は、衣・食・住・文化について、「和と洋」の違いを「和＝日本のもの」ではなく、「和＝身の回りに昔から当たり前にあるもの」と認識していることがわかった。

②しかし、その他の児童は、「わからない」や「なんとなく」と書いたり話したりしていた。

①誤った認識をただす

②あいまいな認識をクリアにする
⇒学びがスタートする

南市岡小学校の取り組み②

指導案 P4

「最強の図書館を作ろう」をめあてに、「**日本十進分類法**」や「**本のつくり**」について理解し、図書を活用

基礎的な知識を身につける
⇒ **学びの基盤を固める**

南市岡小学校の取り組み③

指導案 P4

「個別最適な学習」として、児童の主体性を促すために、児童が自分で選んだテーマについて **1人1冊資料** を確保することを重要視して学習を進めた。

全員が情報を獲得できる
⇒ **学びの基盤を固める**

南市岡小学校の取り組み④

指導案 P5

- ①学校主幹司書が必要な情報までの二次元コードを個別に作成するなどして、調べ学習の充実を図っている。
- ②情報の安全性についても、二次元コードを生成する際に指導者が確認しているため、安全であると言える。

- ①全員が情報を獲得できる
⇒**学びの基盤を固める**
- ②信頼できる情報の担保
⇒**学びの方向性をそろえる**

南市岡小学校の取り組み⑤

指導案 P7

事前に準備した「和」のものについて、学校図書館に実物を展示したり、資料を提示したりして、その大きさや形などを実物に近い形でイメージできるようにする。

実物でイメージが明確につかめる
⇒ **学びが迷走しないようにする**

南市岡小学校の取り組み⑥

指導案 P7

ハテナシートを活用して百科事典の使い方を学習する。

全員が情報を獲得できるようになる
⇒ **学びの基盤を固める**

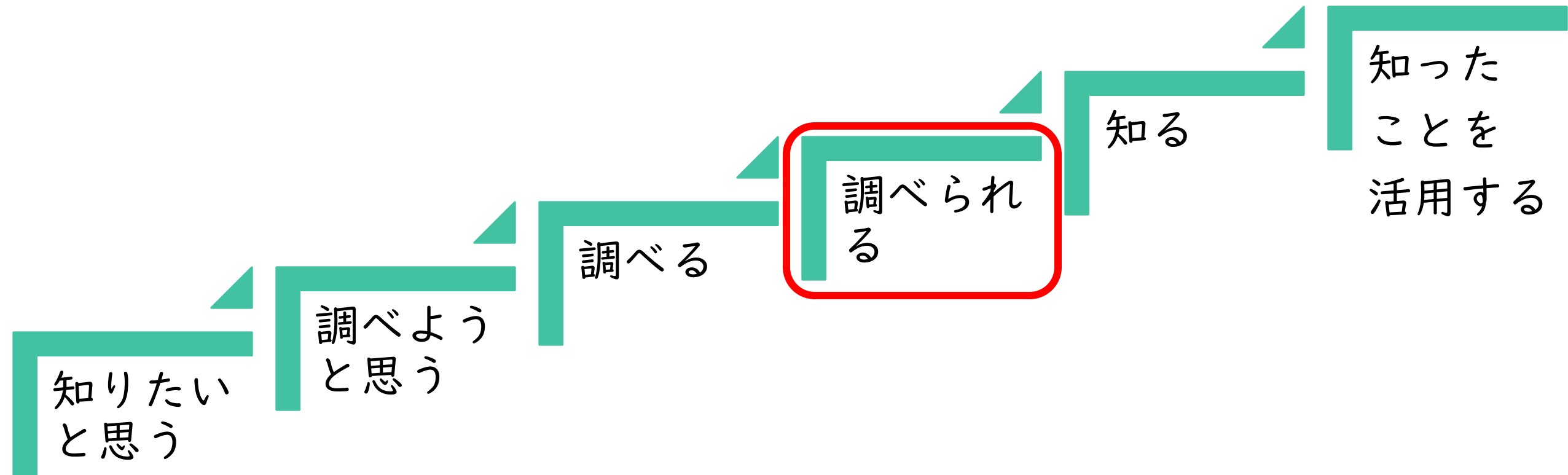
南市岡小学校の取り組み⑦

指導案 P12

- ①資料の関係上、児童に第2希望までとり、次の時間までに、主幹学校司書と相談して、できるだけ書籍や図鑑などで示すことのできる資料を探す。
- ②必要な資料については、学校図書館の図書だけでなく、ICT端末でも主幹学校司書が用意した二次元コードを使って、児童が目的に応じて1人1資料を活用し、情報収集できるようにする。

児童それぞれのテーマに合わせ、多様な媒体で、多様な資料を、全員に準備する ⇒ **学びの基盤を徹底的に担保する**

知りたいことを調べ、知る 子どもたちとは？



学びをブーストするための支援

学びの拡張に資する多様で広範な情報の提供

- ・ 学習者の好奇心を刺激するため
- ・ 周辺情報、関連情報をつかむため
- ・ まったく別の視点を入れ込むため

⇒ 学びを広く深くし、次の学びの最大値を大きくつかむため

南市岡小学校の取り組み①

指導案 P5・8

- ① (P5)主幹学校司書と相談し、完成したリーフレットを学校図書館に展示し、利用する他学年や教職員に感想を書いてもらうことにした。
- ② (P7)しばらく学校図書館に展示し、学校の児童や教職員などが手に取って読めるようにする。

①学習成果物の公開

⇒自身の成果物の客観視

①他者の感想を得る

⇒評価が次の意欲につながる

②それが繰り返される

⇒活動の価値を体感する

南市岡小学校の取り組み②

指導案 P7

- ① 並行読書用の本の貸し出し
- ② 約100冊以上の図書がそろった

① 学習と連動した並行読書
⇒ 自身の成果物の客観視
他者の感想を得る
⇒ 評価が次の意欲につながる

指導案 P8

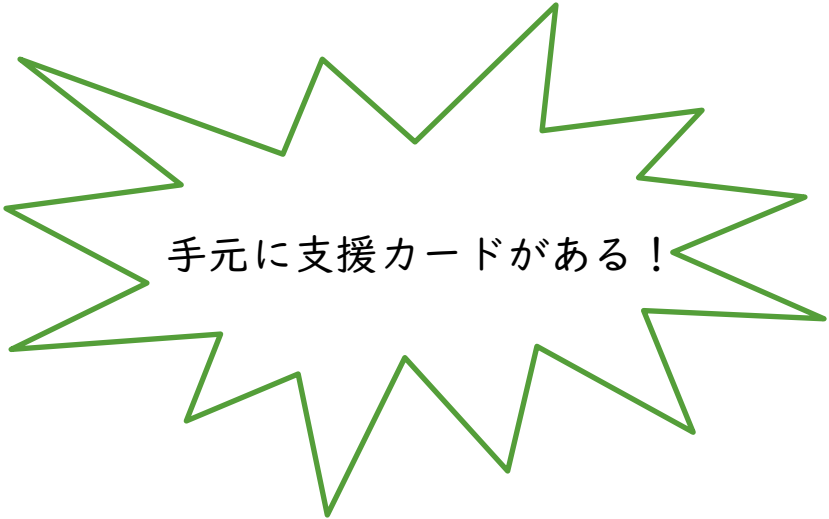
並行読書の本から記録してきた中から
～テーマを決める

これまでの活動が、先の学習で
活かされる
⇒ 読書の価値を感じる

南市岡小学校の取り組み③

指導案 P 8

「情報をせい理するコツ」として、要約「まとめること」と引用「文章を抜き出すこと」について**改めて確認**する



手元に支援カードがある！

目的に応じて適切な図書を選び、
情報を収集することと、
またその情報を整理してまとめる
⇒ **既習事項を実際の学びに生かす**
コンピテンシーの獲得

資料・情報提供の 一般的な手順と 今回の検証

南市岡小学校の場合

手法 A

①授業者が授業を組み立てる。



②司書はその授業の計画に沿って、必要と思われる場所、時間、ボリューム・内容などを把握した上で、資料の準備・提供を実施する。

- ・どんな授業がされるのか？

- ・何をねらうのか？

手法 B

①授業者が授業を組み立てる段階で
学校司書も加わってアイデアを出す。



②授業者はそれをもとに授業計画を立案



③学校司書は支援を準備・提供する。

資料・情報提供の手順①

あらかじめ全学年、全教科の調べ学習単元および
資料提供可能単元をピックアップ

- ・何年生の、いつ頃の、どの教科、どの単元なのか

ポイント

- ・年間指導計画、教科書会社のHP、教科書、指導書などから把握できる

アイデア

- ・教科書改訂のタイミングで図書館用の年間計画を作ればしばらく使える

資料・情報提供の手順②

教科書と指導書から、単元の流れを把握

- ・ねらいは何か？
- ・どういう活動なのか？
(知るだけか？書き出すのか？比較するのか？)
- ・どうアウトプットするのか？

ポイント

- ・まずは自力でしっかり調査する
＝授業者の負担軽減が利用につながる

ヒント

- ・指導書は授業者に借りる
- ・教科書は図書館の公務用として購入

学習のながれ

つかむ

教科書のトピックを中心に、その周辺も含めた幅広いトピックから、自分の課題をつかむ

しらべる

個人の課題をテーマに設定し、そこを深く知る

まとめる

学習を振り返り、その過程をまとめる・アウトプットする

学習のながれに対する 資料・情報提供 = ○

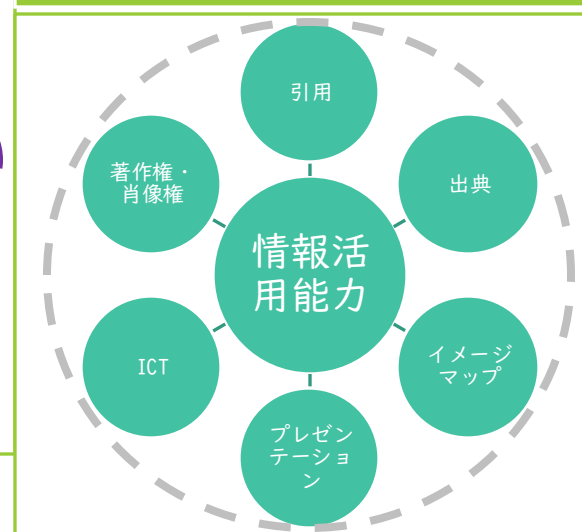
つかむ



しらべる



まとめる



資料・情報提供の手順③

授業の進め方についてヒアリング

- ・ 資料、情報活用のタイミング
- ・ 教材研究用資料の必要があるか？
- ・ 個人追求（個人でのテーマ設定）の有無
（テーマが出揃う時期、共有方法やタイミング）

ポイント

- ・ 短時間で、確実に記録ができるように

ヒント

- ・ ICT活用
- ・ 双方の負担軽減と記録の一石二鳥

資料・情報提供の手順④

指導内容に合わせた

「提供資料に**含まれるべき情報**」の把握

- ・この本ではなく、こういう内容の本という情報が必要
- ・何が書かれていなければいけないのか？を把握する
- ・必要な情報量、ボリューム

ポイント

- 「車の本」
- 「車の●●が書かれている本」
- ・隣接キーワードに該当する資料も必要

ヒント

- ・朱書きの情報がかなり有効

資料・情報提供の手順⑤

必要資料の所蔵状況、出版状況の調査

- ・何を提供できるか？
- ・何が足りないのか？
- ・どう手配するか？
- ・いつまでに手配できるのか？

ポイント

- ・いつからいつまで、何冊必要なのか？

考慮の上、手配

- ・デジタル情報も必ずチェック

ヒント

- ・公共図書館の団体貸出を活用
- ・その場合は、手順④の情報を確実に共有

ねらいに合わせた「使い勝手」



存分に使ってください！

使うことで、
使われることで、
学校図書館活用のレベルが上がります

提供資料（もしくは情報）のレベルと コレクション

協働
ポイント

上級 どんな形態でも情報を抜き出せる層

- もはや一般書のほうが、無駄に情報に制限をかけずに提供できることもある

中級 ある程度学習に沿った構成であれば、情報を抜き出せる層

- 教科書や支持そのままのキーワードやレイアウトがなくても、調査そのものに大きなストレスがないづくりの学習資料

初級 教科書や指示とほぼ同じ体裁でなければ情報を抜き出すのが難しい層

- キーワードやレイアウトが教科書や支持から大きく逸脱しておらず、ストレスなく活動ができる学習資料

基本的に

読書案内はオーダーメイド

読書力を判定

嗜好を掴む

読書傾向を掴む

「個」と「本」のマッチング

読書案内

基本的に

学習支援もオーダーメイド

追っているテーマを知る

目指すゴールを知る

提供可能資料・情報を掴む

「個」と「情報」のマッチング

学習支援

学校現場での学校図書館活用

学校司書の専門知識

(学校図書館を機能させられるだけの専門性)

×

司書教諭を中心とした教員の学校図書館活用能力

(学校図書館による授業支援パターンの把握など)

×

日常業務の中での無理のない情報共有

(同僚性の発揮によるフラットでコンパクトなコミュニケーション)

×

現代の教育観に合った活用、指導

学校図書館業務における AI活用

さらにその先へ

AIが力を発揮するポイント

1. 自分から絞り出した知恵のそのさらに一回り外を

まだまだ、まだまだ、ある、、、

2. 提供した範囲が、子どもたちの活動範囲

狭ければ狭い、広ければ広い

どんどん深掘りしていくために

まずは投げてみたら、

投げる側の思考の「深度」も見える？

「学校図書館としてこの授業をさらに支援するためのポイントはどこですか？」

1. 情報活用能力の深化と継続的な学びの支援

現在の支援では、分類法や要約の仕方を指導していますが、さらに踏み込んだ支援が可能です。

- ・ **情報の信頼性の評価：** インターネットから情報を得る際に、どの情報が信頼できるかを見分ける力を育む指導を行うことができます。例えば、複数の情報源を比較する、出典を確認するといった方法を教えます。
- ・ **デジタルツールとの連携：** 文章をまとめる際に、タブレットやPCのデジタルツール（共有ドキュメントやプレゼンテーションソフトなど）を導入し、グループでの共同作業を促すことも考えられます。
- ・ **調べ学習の成果の可視化：** 児童が作成したQRコードを、授業後も図書館の掲示板などに展示することで、継続的に他の児童がアクセスできる環境を提供します。

「学校図書館としてこの授業をさらに支援するためのポイントはどこですか？」

2. 多様なメディアの活用と紹介

図書だけでなく、多様なメディアを活用することで、より多角的な視点から「和」について探究できるようになります。

- ・ **新聞・雑誌の活用：**新聞の切り抜きや雑誌の特集記事など、最新の情報を扱う資料を紹介し、時代ごとの「和」の捉え方の変化について考察する機会を提供します。
- ・ **視聴覚資料の導入：**和食の作り方や伝統工芸の職人技を記録した動画、伝統音楽の音源などを紹介し、五感を使って「和」の魅力を感じられるようにします。

「学校図書館としてこの授業をさらに支援するためのポイントはどこですか？」

3. 成果発表の場の拡充と交流

現在の成果発表の場をさらに広げることで、児童の学習意欲を高めることができます。

- ・ **全校生徒への発表機会の創出：** 児童の成果物を図書館内の特設コーナーに展示するだけでなく、全校集会や学校公開日などで発表する機会を設けることで、より多くの人にその学びを伝えることができます。
- ・ **他学年との交流：** 高学年の児童が低学年の児童に「和」の魅力をプレゼンテーションするイベントを開催するなど、学びを伝える側になることで、さらに深い理解に繋がられます。

あなたの現場で
次にすることは？

～ピックアップと実装に向けた行動を～